

韓国勤労者職業病予防事業計画 打合せ調査団報告書

平成5年6月

国際協力事業団

社協二

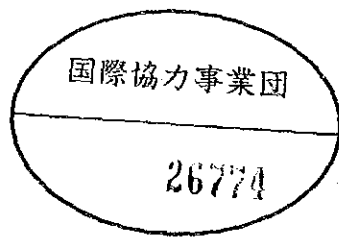
JR

93 - 035

JICA LIBRARY



1115630141



国際協力事業団

26774

韓国勤労者職業病予防事業計画

打合せ調査団報告書

平成5年6月

国際協力事業団

序 文

韓国は、5次におよぶ経済開発計画（1962～1986年）により、第1次産業から第2次産業及び第3次産業中心の工業国家に変貌した。この工業化による産業構造の変化が労働環境上さまざまな問題をもたらし、とりわけ、作業環境の変化に伴う労働者の健康問題（職業病）が社会問題として取り上げられるようになった。このため、作業環境と職業病を中心とした勤労者職業病予防事業の新しい体系の確立が急務であるとして、平成2年5月、盧泰愚韓国大統領の訪日の際、日韓首脳会談及び日韓外相会議において、勤労者職業病予防のための技術協力の実施について、要請があった。

その後同年8月には、韓国労働部からわが国に対し、本件プロジェクト方式技術協力の要請書が正式に出された。

これに対し、国際協力事業団は、具体的な要請背景及び内容を把握し、協力実施のための条件を整理するとともに、わが国の協力可能な範囲、分野及び内容について、先方機関と協議を行い、プロジェクト実施の可能性及び妥当性を検討する目的で、平成2年11月予備調査団を派遣した。引き続き、協力内容の詳細を調査するため、平成3年8月、長期調査員を派遣し、右結果を基に国内委員会を設置し、日本側の協力範囲、内容について十分討議を行うとともに、平成4年3月に事前調査団を、また、右調査結果を踏まえて同年4月に実施協議調査団をそれぞれ派遣した。この結果韓国側と討議議事録（R/D）が署名され、5ヵ年の協力が開始された。

本報告書は、プロジェクトの現況を調査・把握するとともに技術移転内容を再確認し、平成5年度の日韓双方による実行計画について協議・確認するため、平成5年3月16日から同年3月24日まで9日間派遣した計画打合せ調査団の調査及び協議結果を取り纏めたものである。

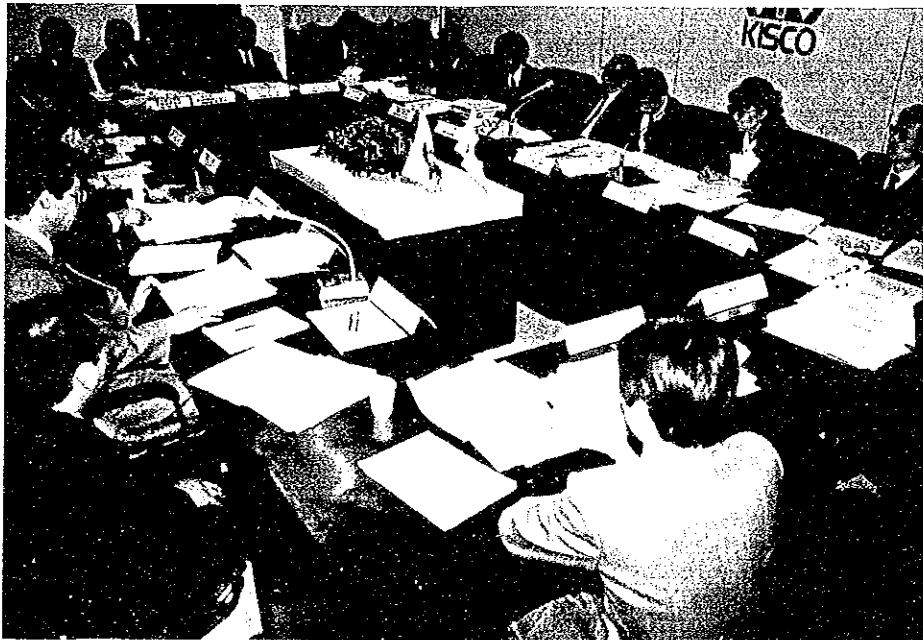
ここに、本調査の任に当たられた調査団員の方々、及びご協力頂いた外務省、労働省、在大韓民国日本国大使館並びに国内委員会各委員の皆様、そのほか関係者の方々にこの機会を借りて深甚なる謝意を表すとともに、今後のご支援をお願いする次第です。

平成5年6月

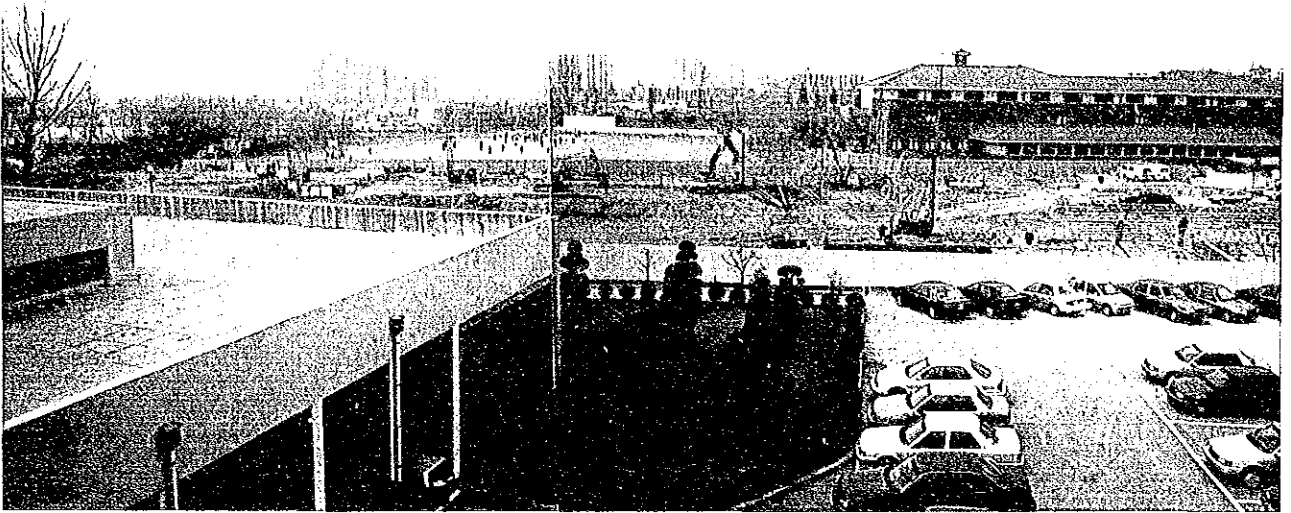
国際協力事業団
社会開発協力部
部長 石崎 光夫



ミニッツ署名交換



韓国側との協議



産業安全公団本部移転予定地（基礎部施工中）



調査団員（左から五十嵐団員、田中団長、古川団員
館団員、牛尾団員、小泉団員）

目 次

序 文 写 真

1. 計画打合せ調査団の派遣	1
1-1 要請の内容及び背景	1
1-2 調査日程表	1
1-3 調査団構成	2
1-4 主要面談者	2
2. 調査結果	5
2-1 要 約	5
2-2 主要協議事項	5
3. プロジェクト実施運営体制	9
3-1 組織図	9
3-2 施設整備状況	12
3-3 予算確保状況	13
3-4 カウンターパートの配置状況	15
3-5 機材整備状況	17
3-6 技術移転状況	21
4. 日本側の協力実績及び計画	27
4-1 専門家派遣	27
4-2 研修員受入れ	28
4-3 機材供与	29
4-4 ローカルコスト負担	29

付属資料

1. ミニッツ	33
2. 協議に用いた資料	45
3. 持ち帰り資料	55

1. 計画打合せ調査団の派遣

1-1 要請の内容及び背景

韓国は第5次経済開発計画（1963～1988年）により、第1次産業から第2次及び第3次産業中心の工業国家に変貌した。

この工業化による産業構造の変化が労働環境上色々な問題をもたらし、とりわけ作業環境の変化に伴う労働者の健康問題（職業病）が社会問題として取り上げられるようになった。このため今般、韓国側より作業環境と職業病を中心とした勤労者職業病予防事業の新しい体系の確立が急務であるとして、本件について我が国にプロジェクト方式の技術協力要請があったものである。

この要請に基づき、具体的な要請内容を把握し、協力実施の前提条件を整理すると共に我が国の協力可能な範囲、分野及び内容について先方機関と協議を行うことによりプロジェクト実施の可能性及び妥当性を検討する目的で、平成2年11月に予備調査団を派遣、更に協力範囲、内容について詳細な調査・協議を実施する目的で平成3年8月長期調査員、平成4年3月事前調査団及び平成4年4月に実施協議調査団を派遣し、平成4年4月より5ヵ年の協力が実施されている。

実施協議調査以後のプロジェクトの現況を調査・把握するとともに技術移転内容を再確認し、平成5年度の日韓双方による実行計画について協議・確認するため計画打合せ調査団を派遣することとなった。

1-2 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	3/16	火	成田 JL-95L ソウル	移動
				日本大使館表敬、日本人専門家との打合せ
2	17	水	ソウル	労働部、科学技術処、産業安全公団および順天郷大学校表敬
3	18	木	〃	産業安全公団保健研究院表敬・視察、日本人専門家との打合せ
				大韓産業保健協会表敬・視察
4	19	金	〃	韓国側との協議
5	20	土	〃	日本人専門家との打合せ及び資料整理
6	21	日	ソウル—— 亀尾	移動
7	22	月		順天郷大学校亀尾センター表敬・視察
			亀尾——ソウル	移動
8	23	火	ソウル	大韓産業保健協会中央分析実験室、中央産業保健センター視察、
				ミニッツ（案）協議
9	24	水	〃	ミニッツ署名
				日本大使館へ帰国報告
			ソウル JL-95L 成田	移動

1-3 調査団構成

・総括／労働衛生一般	田中喜代史	労働省労働基準局安全衛生部 労働衛生課長
・健康管理	館 正知	岐阜大学名誉教授
・有害性調査／労働衛生研究 基盤整備	小泉 登	労働省労働基準局安全衛生部 国際室長
・作業環境管理／保護具検定	古川 祐二	労働省労働基準局安全衛生部 労働衛生課中央労働衛生専門官
・協力企画	五十嵐良博	国際協力事業団社会開発協力部 社会開発協力2課職員
・通 訊	牛尾 恵子	日本国際協力センター国際交流部 研修監理員

1-4 主要面談者

安 榮秀	労働部産業安全局長
趙 柱炫	〃 産業保健課長
李 在興	〃 行政事務官
李 憲圭	科学技術處技術協力局技術協力一課長
尹 錫春	韓国産業安全公団技術理事
李 京男	〃 産業保健部長
鄭 奎澈	〃 産業保健研究院長
鄭 浩根	〃 職業病診断センター所長
曹 圭常	大韓産業保健協会長
尹 任重	〃 副会長
崔 炳秀	〃 専務理事
季 政煥	〃 専門委員
趙 英璠	〃 中央産業保健センター所長
李 尚柱	順天郷大学校病院長
南 澤昇	〃 集団産業保健管理研究所名誉所長
禹 克鉉	〃 〃 企画管理室長

後藤利雄	在大韓民国日本国大使館特命全權大使
西田芳弘	” 参事官
阿部孝哉	” 一等書記官
遠藤雅仁	” ”
張東華	” 調査官
佐々木元茂	韓国勤労者職業病予防事業プロジェクト・チーフ・アドバイザー
田村光博	業務調整
山口誠哉	労働衛生一般

2. 調査結果

2-1 要 約

今回の計画打合せ調査団は、本プロジェクトの初年度である'92年度における技術移転の実施状況の確認や問題点等の把握を行うとともに、'93年度の具体的な技術移転実施計画について韓国側と協議を行い合意を得ることを目的として調査を行った。

その結果、'92年度における長期及び短期の専門家の派遣、カウンターパート日本研修の実施による技術移転及び技術協力対象各機関におけるカウンターパートの配置、関連施設の整備などを含め、本プロジェクトは暫定実施計画（TSI）に基づき概ね順調に進行していることが認められた。

2-2 主要協議事項

(1) 専門家の派遣

① 長期専門家

長期専門家として'92年度からチーフアドバイザー、コーディネーター及び労働衛生一般の専門家の計3名を派遣している。このうち、労働衛生一般の専門家は'93年8月末で任期を終了することとなるが、引き続き同分野の後任の専門家を1年間派遣することで合意を得た。

② 短期専門家

短期専門家として'92年度は「健康診断精度管理」1名（2回）、「職業性疾病」3名、「局所排気装置」1名及び「作業環境測定」1名を派遣した。

'93年度は「労働衛生研究基盤整備」、「局所排気装置」、「防毒マスク検定」、「作業環境測定」及び「職業性疾病」の分野の専門家を派遣することとする。ただし、'92年度の「健康診断精度管理」の分野における技術移転の実施状況をみると、当初予定した段階にまで到達していないものと判断されるため、'93年度に引き続きこの分野の専門家を派遣することが技術移転を効率的に実施する上で望ましいものと思われる。このため、この分野の専門家派遣（'93年度）について今後、日韓双方で協議することとした。

また、韓国側は「防毒マスク検定」の専門家に加えて「防じんマスク検定」の専門家派遣を要望したが、TSIどおり「防毒マスク検定」の専門家2名を派遣することとし、必要に応じて当該専門家が防じんマスクの検定に関する技術指導を実施することで合意を得た。

なお、'92年度の専門家派遣に関し、韓国側が派遣予定の専門家に直接連絡を取る

ことで情報が混乱する等の問題が生じたことから、今後はまず要望する技術移転の内容を明確（具体的）にして、必ずチーフアドバイザーを通じて日本側と協議し、その分野に最も適切な専門家を決定していく必要があることについて韓国側の理解を求め、了解を得た。

(2) カウンターパート日本研修

カウンターパート日本研修は、'92年度、「変異原性試験」1名、「吸入試験」2名、「職業性疾病」3名及び「保護具検定」1名の受入れを決定している。

'93年度は、「職業性疾病」4名、「作業環境測定」2名及び「その他（労働衛生実態、事業場視察）」1名のカウンターパート日本研修を受け入れることとする。

なお、カウンターパート日本研修の成果の普及に関し、日本における研修結果の記録やセミナー等の実施によって他のカウンターパートに伝達する方法、計画について今後チーフアドバイザーと協議するよう申し入れを行った。

(3) 機材供与

'92年度の供与機材は韓国側の希望する優先順位を考慮の上、仕様書確認、入札、機材調達等の手続きを経て、'93年8月頃には供与できるスケジュールとなっていること及び'93年度の供与機材については同様の手続き、協議を経て当年度内（'93年12月頃）には供与できる予定であることを説明し、理解を得た。韓国側は機材の早期供与を求めているが、韓国側が機材を設置する施設の具体的な設計、整備を行う上でもできる限り早期に機種名、仕様、輸送時期等を明確にする必要がある。

(4) 施設の整備

韓国産業安全公団、大韓産業保健協会及び順天郷大学校の各対象機関において、技術移転に係る施設の整備（新築、改修）が進められている。

韓国産業安全公団の本部は'95年2月に仁川に移転する計画となっており、これに伴って日本諮問官室をどこに置くかが問題となる。本プロジェクトは対象機関が3機関に渡り、韓国政府労働部が総括して調整を行い、プロジェクトの円滑な進行を図る必要があることから、諮問官室をソウルに確保するよう韓国側に申し入れた。

大韓産業保健協会及び順天郷大学校のいずれにおいても供与機材等を設置する施設の整備（計画）を進めているが、特に放射線装置室の設計について説明を求めたところ、韓国の放射線管理に関する法律に基づき放射線防護がなされるとのことであり、今後、具体的な機種（X線装置）に応じた詳細設計に当たって遮蔽基準を遵守するように要請した。

(5) 技術協力対象機関における予算措置

技術協力の対象とする各機関から資料により関連予算の状況が示されたが、現段階に

において技術移転に必要な予算措置に関し、特に問題は無いものと思われる。今後、技術協力の本格化に伴い、その進行に必要な予算の確保について確認していく必要がある。

3. プロジェクト実施運営体制

3-1 組織図

(1) 韓国側

本プロジェクトの総括責任者は、韓国労働部産業安全局長（局長 安 榮秀）であり、技術移転の対象機関である韓国産業安全公団、(社)大韓産業保健協会及び順天郷大学の業務計画、予算等の運営管理の調整に当たっている。

まだ、技術移転対象機関の責任者及び技術移転部門は、次のとおりである。

	窓 口	技術移転部門
韓国産業安全公団	技術理事 尹 錫 春	産業保健研究院
大韓産業保健協会	専務理事 崔 炳 秀	中央分析実験室 中央産業保健センター
順天郷大学	亀尾センター名誉所長 南 澤 昇	集団産業保健管理 研究所 亀尾センター

(2) 日本側

現在、3名の長期専門家が派遣されている。リーダー及び調整員は、労働部をカウンターパートとしてプロジェクト全体の効果的、効率的運営について支援し、また、労働衛生一般に係る専門家は、産業保健研究院を中心に、労働衛生分野についての専門的な立場から労働衛生に係る全般的な相談に応ずるとともに研究院の研究体制、研究の方向について指導を行っている。

分 野	氏 名 (所属)	関係機関	活動期間
リ ー ダ ー	佐々木 元 茂 (労働省)	公団、協会 大学	4. 9. 1 ～6. 8. 31
調 整 員	田 村 光 博 (国際協力サービスセンター)	公団、協会 大学	4. 6. 1 ～6. 5. 31
労働衛生一般	山 口 誠 哉 (筑波大学名誉教授)	公団 (産業保健研究院)	4. 9. 1 ～5. 8. 31

(3) 合同委員会

プロジェクトの適切な運営を図るためプロジェクト合同委員会が設置されている。

① 開催

年1回以上及び必要と認められる場合に開催する。

② 協議事項

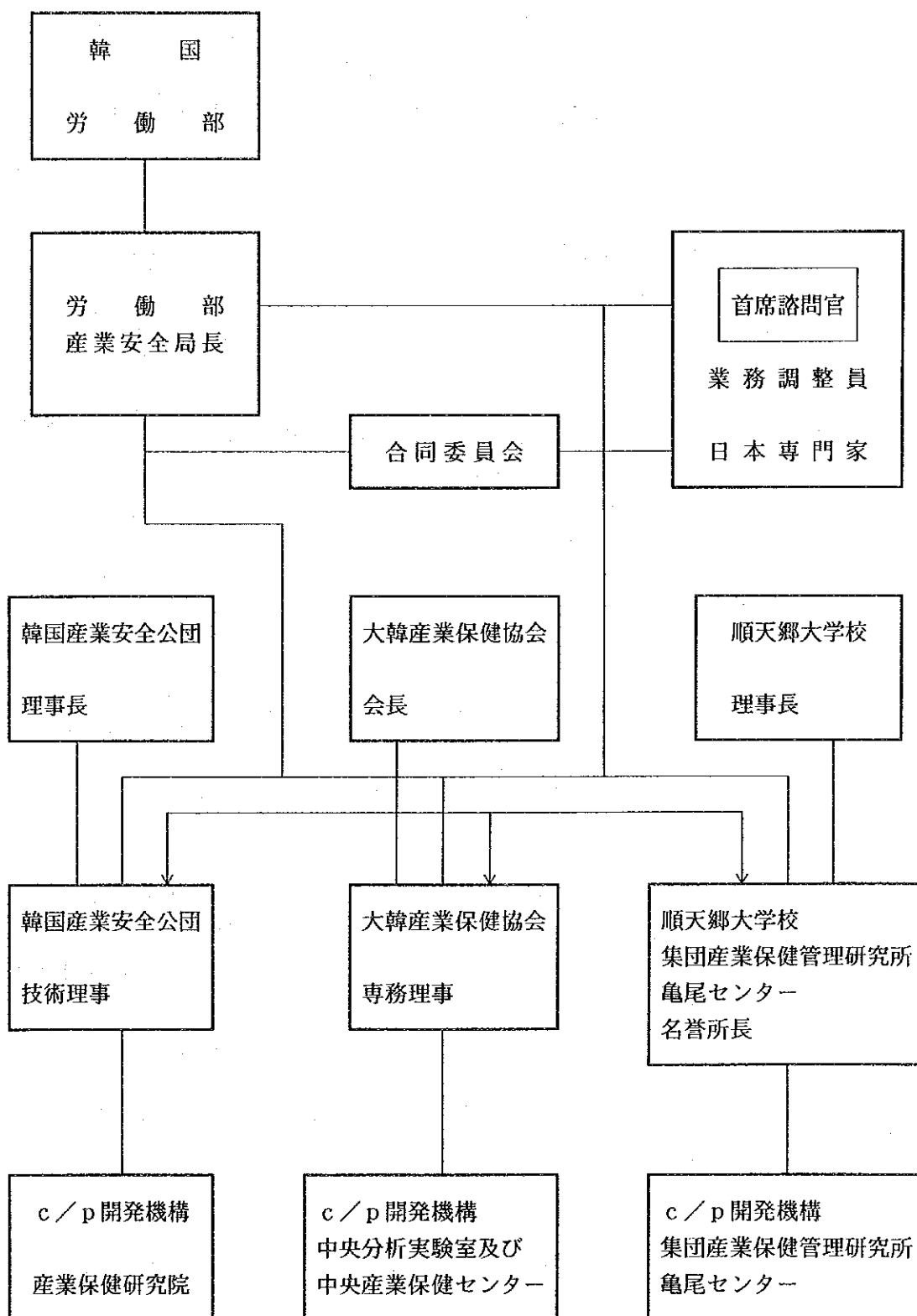
- イ R/D 締結によって決定された実施暫定スケジュールに基づく年間実施計画の策定
- ロ 技術協力の進捗状況及び上記計画の達成度の評価
- ハ その他技術協力計画に係る重要事項の審議検討

③ 構成

- イ 委員長 労働部産業安全局長
- ロ 韓国側委員
労働部産業保健課長
韓国産業安全公団技術担当理事
大韓産業保健協会専務理事
順天郷大学集団産業保健管理研究所亀尾センター名誉所長
技術協力分野におけるカウンターパート
- ハ 日本側委員
チーフアドバイザー
調整員
その他日本人専門家
必要に応じて JICA から派遣される関係者

注) 在韓日本大使館員又は在日韓国大使館員は、オブザーバーとして合同委員会に出席することができる。

韓日勤労者職業病予防事業組織図



3-2 施設整備状況

(1) 韓国産業安全公団

1995年2月に公団本部は、ソウル市内から、同公団の産業保健研究院の設置されている仁川市に移転する予定であり、現在その工事が行われている。

日本諮問官室は、現在公団本部内の一室にあるが、公団の移転に伴い、仁川市に移った場合、労働部及び技術移転対象の3機関との連絡調整に支障をきたす恐れがあるため、ソウル市内の適当な場所を確保するよう要請した。

これに対して、労働部産業保健課長より現時点では、予算措置等の問題もあるので、結論することはできないが、今後、公団、首席諮問官、労働部の3者で話し合い、次期調査団来韓時までには要請の趣旨に沿うよう前向きに検討する旨の発言があった。

(2) 大韓産業保健協会

当協会では、次のような理由により、中央産業保健センター及び中央分析実験室が所在するソウル支部の建物を増改築することとしている。

- ① 韓日技術移転に伴う機材設置による中央分析実験室の設置場所不足
- ② 健康診断等の増加に伴う診療場所不足
- ③ 保健管理課職員の増員
- ④ その他機材の配置が不適切

増改築工事の予定は、1993年3月末に行政当局の許可を得て、4月に工事を開始し、同年7月には完成予定である。

これにより、建物延面積は、現在の754㎡から1215㎡に461㎡増加することになる。

設計図面は別図のとおりである。

なお、平成4年度機材供与予定のX-RAY撮影機（直接）の設置場所の構造については、韓国国内法である放射線管理法に基づく基準を満たすこととし、設置場所の放射線防護対策を含め詳細設計は、供与される機材の機種が明らかになりしだい実施する旨の説明があった。

(3) 順天郷大学亀尾センター

亀尾センターの増設工事は、1992年に竣工しており、供与機材の搬入は可能な状況である。

3-3 予算確保状況

各機関から提出のあった技術移転に関連する1993年度（1993年1月～12月）予算は、次のとおりである。

1. 韓国産業安全公団

'93年度技術移転場所別、分野別予算内訳

分 野	技術移転場所名	'93 予算内訳
	計	392,964,000₩
○ 保護具検定	産業保健研究院	○ 材料費 23,620,000₩ ○ 公機構備品購入 184,630,000₩ ○ 受容費手数料 10,090,000₩
○ 労働衛生研究基盤造成	産業保健研究院	○ 材料費 6,384,000₩ ○ 公機構備品購入 118,500,000₩ ○ 受容費手数料 9,763,000₩
○ 其他		○ 専門家 受容 : 2,132,000₩ ○ 研修生 派遣 : 17,845,000₩

2. 大韓産業保健協会

	93年度予算（単位ウォン）
中央産業保健センター	100,000,000WON 内訳 韓日技術協力整備、関税、運搬費及び設置費用

3. 順天郷大学

(1) 亀尾センター

技術移轉場所名	'93 決算内譯	分 野
計		
※ 事業収入	計 : 292,000,000 WON	
1. 保健管理代行業 (167個 事業場 17,000名 ×1,000WON/月×12個月)	204,000,000 WON	健康診断
2. 作業環境測定 及び 評價	88,000,000 WON	職業病豫防
※ 支出	計 : 292,000,000 WON	
1. 研究所 専任 人力報酬 (20名×750,000 WON/月×12個月)	180,000,000 WON	健康診断
2. 技術協力 及び 調査研究機能強化費	20,000,000 WON	
3. 效率的 保健管理 體系確立費	10,000,000 WON	
4. 健康診断の 精度管理に関する研究費	10,000,000 WON	
5. 保健管理業務の 電算化に関する研究費	10,000,000 WON	
6. 物品購入費 (消耗品費 包含)	30,000,000 WON	
7. 經常費 (2,000,000 WON/月×12個月)	24,000,000 WON	
8. 豫備費	8,000,000 WON	

(2) 天安センター

技術移轉場所名	'93 決算内譯	分 野
計		
※ 事業収入	計 : 158,000,000 WON	
1. 保健管理代行業 (業種別) (5,000名 × 1,300 WON/月 × 12個月)	78,000,000 WON	健康診断
2. 作業環境測定 及び 評價	80,000,000 WON	職業病豫防
※ 支出	計 : 158,000,000 WON	
1. 研究所 専任 人力報酬 (10名×750,000 WON/月×12個月)	90,000,000 WON	健康診断
2. 效率的 保健管理 體系確立費	10,000,000 WON	
3. 健康診断の 精度管理に関する研究費	10,000,000 WON	
4. 保健管理業務の 電算化に関する研究費	10,000,000 WON	
5. 物品購入費 (消耗品費 包含)	10,000,000 WON	
6. 經常費 (1,000,000 WON/月×12個月)	12,000,000 WON	
7. 豫備費	16,000,000 WON	

3-4 カウンターパートの配置状況

各機関ごと及び各分野ごとのカウンターパートの配置状況は、次のとおりである。

1. 韓国産業安全公団

分野	氏名	年齢	職務	資格	経歴年数	日本側 C/Pとの 職務分擔内容	日語 能力	備考
○ 作業環境 測定	吳世敏	53歳	産業衛生 研究室長	薬学博士	産業保健 15年	日本 短期専門家の 技術移轉のための 諸般與件の造成	中	
○ 局所排氣	朴東旭	32歳	産業衛生 研究室 選任 研究員	保健 學士	産業保健 5年	換氣装置設計技法 及び定期自主検査 技法の技術傳受 與件造成及び傳播	下	
○ 保護具 検定	李相基	36歳	産業安全 研究院 選任 研究員	化学修士	'93. 3月 日本研修 豫定	保護具 検定の技術 傳受のための機材 整備等の與件造成	中	
○ 有害性 調査								
- 吸入 試験	俞日在	38歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 責任 研究員	臨床病理 學 修士	-	實驗用動物を 扱う短期吸入 實驗方法の技術 傳受のための 機材確保等の 與件造成	中	
	林哲弘	28歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 研究員	生體安全 性化学 士	'93. 3 ~ '94. 2 日本研修	實驗用動物を 扱う短期吸入 實驗方法の技術 傳受のための 機材確保等の 與件造成	中	
- チャン バ運営	金鉉榮	36歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 選任 研究員	化工 學士	'93. 3月 日本研修 豫定	日本研修後産業 保健研究院チャン バの設置及び管理	中	
- 變異原 性實驗	孟承希	32歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 研究員	産 業 毒 性 學 士	'92. 8 ~ '93. 9 日本研修	Ames試験 染色體 異常試験基盤造成	中	
○ 労働衛生 一般	鄭奎澈		産業保健 研究院長	豫防醫學 士	-	産業保健研究院の 研究體制, 研究 方向整備	上	

分野	氏名	年齢	職務	資格	経歴年数	日本側 C/Pとの職務分擔内容	日語能力	備考
○ 健康管理 - 健康診断	姜星圭	34歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-首席 研究員	家庭醫學 専門醫	産業保健 4年	健康診断事後管理 のための資料管理 方法等の整備	中	
- 職業性 疾病	鄭浩根	47歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-所長	豫防醫學 博士	'93.2.1 ~ 3.9. 日本研修	職業起因性疾病に ついて日本におけ る最新知識、技術 情報習得及び傳播	中	
○ 労働衛生 研究基盤 整備	鄭浩根	47歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-所長	豫防醫學 博士	'93.2.1 ~ 3.9. 日本研修	日本研修内容の傳 播及び最新知識、 技術情報の技術傳 受	中	

2. 大韓産業保健協会

分野	姓名	年齢	自 格	経歴年数	日本側 C/Pとの職務分擔内容	備考
作業環境測定	李政煥	58	産業衛生技術師	30	協会、韓・日協力事業総括補助	
	金正男	50	化学専攻	20	行政専担、裝備選定	
	任昌浩	36	産業衛生1級	13	測定、評価	
	金錫源	37	環境技術1級	10	有害物精度管理	
	金在雄	40	"	12	測定・評価	
	朴厚根	33	産業衛生1級	6	"	
	金鍾寬	26	環境技師2級	4	測定評価補助	
	柳寓植	30	環境学専攻	2	韓日協力事業担当	
職業性疾病	趙英曙	70	予防医学専門医	45	通訳業務指導	
	河銀姫	30	"	6	職業性疾病	
	楊達先	63	"	36	協力事業管理	
	金洙根		"	6	職業性疾患	
	金容湜	35	"	9	協力事業管理・職業性疾患	
健康診断管理	金哲雄	51	臨床病理技師	25	行政及び精度管理技術伝達	
	孫昌根	30	"	9	精度管理検査業務	
	李玘烈	28	"	7	"	

3. 順天郷大学

技術協力分野	姓名	年齢	職務	資格	経歴年数	日本のCOUNTER PARTと職務分擔内容	日本語能力
計							
1. 作業環境測定及び分析分野	金泰效	38	研究所 作業環境 測定課長	産業衛生管理 技士(1級)	12年	関西労働研究CENTER 京都大学 医学部 京都工場保健会等 3個機関を各2カ月 ずつ研修	中
2. 職業病疫学 職業性癌、喘息症、 特定化学物質、 有機溶剤中毒等 に関する最新知 識及び技術分野	禹克炫	37	研究所 企画室長 兼 助教授	預防医学 専門医	9年	九州産業医科大学	中
3. 作業態様起因 疾病分野	安孝徳	34	研究所 専任医師	預防医学 専門医	3年	"	中
	崔順容	33	龜尾病院 整形外科 課長 兼 CENTER 訪問医師	整形外科 専門医	7年	未定 (日側専門家と協議 後決定)	中
4. 騒音性難聴 及び職業性喉頭 癌	張赫淳	45	龜尾病院 耳鼻咽喉科 科長 兼 CENTER 訪問医師	耳鼻咽喉科 専門医	13年	佐賀大学 医学部 (耳鼻咽喉科 教室)	中
5. 職業性 皮膚疾患	鄭賢	38	龜尾病院 皮膚科長 兼 CENTER 訪問医師	皮膚科 専門医	10年	未定 (日側専門家と協議後 決定)	中
6. VDT 症候群 分野	李鍾協	34	訪問医師 龜尾病院 眼科科長 兼 CENTER 訪問医師	眼科 専門医	6年	"	中
7. 産業中毒学	李成羽	45	龜尾病院 内科科長 兼 CENTER 訪問医師	内科 専門医	17年	"	中
8. 産業保健 管理分野	李明淑	36	訪問医師 龜尾CENTER 産業保健 看護師	看護師	2年	京都工場 保健会	中
	金良美	34	龜尾 CENTER 看護師	看護師	12年	"	中

3-5 機材整備状況

プロジェクト協力期間中に、日本側から機材供与する機材以外の機材で、技術移転を効率、効果的に実施するため、技術移転に使用出来る機材を把握するため、1993年度技術移転分野に係る韓国側が現在保有又は購入計画がある機材について調査し、結果は次のとおりである。

また、供与機材中で保守管理契約が必要な機材については、技術移転対象各機関において、必要な体制措置をとるよう要請した。

1. 韓国産業安全公団

分野	既 保 有		構 入 豫 定 ('93)		備考
	機 器 名	数 量	機 器 名	数 量	
○ 作業環境 測定	Personal Air Sampler	22	○ 有機溶剤測定捕集器	4sets	
	Sound Assessment System	1	○ Anemometer	2種	
	W.B.G.T	1	○ Manometer	4sets	
	Personal Cascade Impactor	9	○ CD, ECD	1臺	
	Pacticle Density Analyzer	1	○ ICP-AES	1臺	
	Konimeter 等 121種	227			
	Gas Chromatograph	3			
	A.A.S	5			
	Furnace Automizer等 218種	305			
○ 有害性 調査	無菌盤	1	○ HPLC Auto-sampler	1臺	
	ヘモサイトメーター	2	○ 自動コロニ計数機	1臺	
	ビーベッエイド	2			

分野	既 保 有		構 入 豫 定 ('93)		備考
	機 器 名	数 量	機 器 名	数 量	
○ 健康管理	高速遠心分離機	1			
	コロニカウンタ	10			
	高圧滅菌機	1			
	Blood Gas Monitor	1	○ Capillary Electro-phoresis System	1set	
	放射線計数機	1	○ Hematocrit用 遠心分離機	1 臺	
	多用度計測機	1	○ Microcentrifuge	1 臺	
	自動血圧検	14	○ Cell seperator	1 臺	
	振動血球計数機	1	○ 自動視力測定機	1 臺	
	X-Ray フィルム 現象機	1	○ 皮膚血流測定機	1 臺	
	ジंकプロトホピリン	1	○ 水分蒸発測定機	1 臺	
	インビダンス測定機	1	○ 皮膚色素検査機	1 臺	
	自動生化学分析装置		○ 定量式 噴霧吸引機	1set	
	純音聴力検		○ 肺機能検査機	1set	
			○ 気管支誘發検査	1set	

2. 大韓産業保健協会

'93年度技術傳受分野と關聯した機資材保有現況

職業性 疾病 装 備 名	CENTER			作業環境測定 装 備 名	CENTER		
	ソウル	釜山	光州		ソウル	釜山	光州
X-RAY 撮影機	1	1	1	W. B. G. T	3	2	1
X-RAY AUTO PROCESSOR	1	1	1	O ₂ DETECTOR	3	1	2
CENTRIFUGE	4	6	3	GAS CHROMATOGRAPH	1	1	1
AUDIO METER	5	3	3	A. A SPECTROPHOTOMETER	1	1	1
B. C. G	2	2	3	ULTRA VIOLET LAMP	2	1	1
SPIRO METER	1	1	1	HOT WIRE ANEMOMETER	2	2	1
REFRACTO METER	1	2	1	CO DETECTOR	1	1	1
SPECTROPHOTOMETER	1	1	1	PHOTOIONIZATION G.C	1	1	
GLUCO METER	4	4	3	CALIBRATOR	1		2
BLOOD ROLL MIXER	2	1	1	UV-IR	1	1	1
白血球百分率計算機	1	1	1	VIBRATION LEVEL METER	2	1	
白血球 計算板	1	1	1	DIGITAL PH METER	1		
MICROSCOPE	5	3	1	UV- METER			1
血 圧 計	12	3	2	DOSEMETER	2	3	3
耳 鼻 鏡	2	2	2	DIGITAL AEROSOL METER	1		
DRY OVEN	2	4	1				
AUTO PIPETTE	5	5	3				
CHEMICAL BALANCE	1	1	1				
AUDIO BOOTH	1	1	1				

'93年度技術移傳分野と關聯機材購入豫定現況

センター	機 材	数 量	備 考
ソウル	自動血球計算機	1	國庫支援
	UV-IR	1	
釜 山	Noise dosimeter	2set	國庫支援
	X-線 撮影機	1	
光 州	Sound Scope	1	
	赤外線 測定機	1	

3. 順天郷大学

㊦. 健康診断 裝備

品目名	規格	数量	用途
1. 體重計		2	
2. 視力検査機	植川夕式	3	
3. Audiometer	RIION	4	聴力 検査用
4. Microscope	Olympus	3	
5. Automatic Cell Count		2	白血球, 赤血球, 血色素
6. 白血球 百分率 計算機		2	
7. 恒温水槽, USA Model 260		2	
8. 冷蔵庫	金星	3	
9. Automatic Pipette	Filland	3	
10. Refractometer NOW		4	尿比重 測定
11. X - 線 撮影機	TOSHIBA 500HA	2	
12. X - 線 撮影機	SIHAZU	2	
13. 遠心 分離機	Kokusna	3	
14. Hemoglobin photometer		2	Hb 測定
15. Glucose meter	BT 20-800R	2	血糖 測定
16. Hemato Flurometer	Model 206	2	ZPP 測定
17. 血壓 機 (水銀)	Yull	10	血壓測定
18. Chemical Balance ER-120		2	
19. Spectrophotometer 21 B & L		2	

㊧. 作業環境 測定 分析裝備

品目名	規格	数量	用途
CO Gas Analyzer	Ecoalyzer	2	CO 測定用
Digital Dust-Indicator	Sibada, p-5 LW	2	粉塵 測定用
Lux Meter	Sibada, ANA-500	2	照度 測定用
Air Sampler(Low Volume)	Sibada, C-20	2	粉塵 試料採取用
Mercury Analyzer	Hiranuma, HG-1	2	水銀 測定用
Dry Oven	Lab-Line, 3511	2	乾燥用
Wet Test Gas Meter	GCA	2	試料測定用
Air Sampler(High Volume)	Staplex	2	試料採取用
Longwave UV Lamp	SP-410-L	2	分析用
Shortwave UV Lamp	SP-410-L	2	分析用
Globe Thermometer	Lskikawa	5	輻射熱 測定用
Anemometer	Sibada, ISA-S	2	氣流測定用 局所排氣施設の 性能検査
Barometer	Utsuki, B-150 GNT	2	氣壓測定用
Psychrometer	OTA Keliki, 54	2	濕度測定用
Personal Air Sampler	Gillian 113	20	試料採取用(粉塵, 有機溶剤)
Spectrophotometer	B & L	2	試料化學分析(重金属)
Atomic Absorption Spectrophotometer	shimadzu 680-A	1	試料化學分析(重金属)
Gas Chromatograph FID, TCD	Shimadzu GC-14	2	試料化學分析用(有機溶剤)
Sound level meter	OS-11	2	騒音測定用
Chemical Balance	ER-120	2	粉塵測定用
顯微鏡	LSCB-VC-2BL	2	粉塵測定用
Impinger		10	特定化學物質採取用
純粹製造裝備	76 DL	2	
檢指管	Gestec		50種 保有
酸素(O ₂)測定器	Gestec		檢指管

3-6 技術移転状況

短期専門家による技術移転に関し、韓国関係機関との協議の場において次の点について申し入れを行った。

- ① 派遣予定専門家に韓国側が直接連絡を取ることで情報が混乱し、また要望された技術移転項目と当該専門家の専門分野が食い違うような問題が生じたため、日本側の連絡は、日本人専門家リーダーを中心とした連絡体制をとること。
- ② 職業性疾病分野の派遣専門家数が多い（暫定実施計画では、5ヵ年度で延21名）為、具体的な技術移転内容について重複しないよう、日本人専門家と韓国側との間で充分検討すること。

これに対して、韓国労働部及び順天郷大学から、今後はリーダを通じて連絡するとともに職業性疾病の分野の調整については、3機関で実施する旨の回答があった。

1. 労働衛生一般

山口長期専門家が、労働衛生分野についての専門的な立場で韓国側からの労働衛生に係る全般的な相談に対応するとともに産業保健研究院の研究基盤体制、研究の方向性について指導を行っている。

諮問内容は、多方面にわたるので、労働衛生は一般分野に対する日本人専門家は、単に一分野における専門家でなく、巾広い領域において対応可能な知識が必要である。

2. 作業環境管理

(1) 作業環境測定

① 短期専門家活動

大韓産業保健協会を対象に短期専門家として、中央労働災害防止協会労働衛生検査センター興重治所長が日本方式の作業環境測定と評価手法を紹介し、指導した。

期間は、平成5年3月8日から21日までの2週間であり、韓国側 C/P は、同協会の李政煥専門委員、金正男課長及び李匡黙教授である。又活動内容は次のとおりである。

・作業環境測定方法

暴露限界 TLV 等教育

作業環境評価

・作業環境改善の基本的事項

汚染源及び汚染物質の管理

・測定評価等工場実習

・作業環境管理に関する講演

作業環境測定機関の技術職に対する講義

Catholic 医大予防医学教室主催講義

韓国産業衛生学会 JICA 共催学術センター

(2) 局所排気装置

韓国産業安全公団産業保健研究院を対象に短期専門家として、労働省産業医学総合研究所岩崎毅主任研究官

局所排気装置の設計手法を紹介し、指導した。

期間は平成5年2月8日から3月5日までの1ヵ月である。

3. 保護具検定

本分野は、C/P 日本研修を先行させて技術移転を行うこととしている分野であり、暫定実施計画に従い産業保健研究院の李相基専任研究員が、平成5年3月30日から6ヵ月間産業医学総合研究所を中心に実技主体に研修を行うこととしている。

4. 有害性調査

(1) 変異原性試験

本分野は、変異原性試験のうち、エームス試験、染色体異常試験及び小核試験の試験手法を紹介し、指導するものである。平成4年度は、暫定実施計画に従い、産業保健研究院産業毒性研究室の孟承希研究員が平成4年9月から1年間日本バイオアッセイ研究センターでO.J.Tを中心に研修を行っている。

(2) 吸入試験

本分野は、ラット、マウスのSPF動物を用いて液体又は気体状物質の全身暴露による短期吸入試験手法を紹介し、指導するものである。

平成4年度は、暫定実施計画に従い、産業保健研究院産業毒性研究室の林哲弘研究員及び金鉉榮研究員が日本バイオアッセイ研究センターにおいて、平成5年4月から1年間O.J.T主体に研修を行うこととしている。

5. 健康管理

(1) 職業性疾病

本分野は、重金属、有機溶剤中毒等の工業中毒、職業性皮膚疾患、じん肺症、作業態様に起因する疾病、職業がん等の職業性疾病の実態、健康診断手法、健康診断の事後措置等について、日本の最新知見、技術、情報を紹介するものである。

① 短期専門家

平成4年度は、暫定実施計画に従い、次の専門家が順天郷大学亀尾センターを拠点として技術移転を行った。

氏名(所属)	テーマ	期間
馬場快彦(馬場労働衛生コンサルタント事務所所長)	集団健康管理 日本の労働衛生の動向 健康配慮義務等	2週間 (5. 2. 7~5. 2. 21)
原田章(関西労働衛生技術センター所長)	職業性皮膚障害 低濃度有機溶剤中毒等	2週間 (5. 2. 12~5. 2. 19)
近藤東郎(慶応大学医学部客員教授)	健診結果の評価 産業看護婦の教育 健康度の評価	2週間 (5. 3. 8~5. 3. 18)

② カウンターパート日本研修

産業保健研究院、大韓産業保健協会、順天郷大学亀尾センターを対象に最新の情報収集、健康診断技術、健康診断の事後措置等を対象としている。

カウンターパート氏名(所属)、テーマ、研修先、研修期間は次のとおりである。

氏名(所属)	テーマ	研修先	研修期間
鄭浩根(公団) (C/S方式)	職業性疾病の研究、診断及び管理	産業医科大学(加地)	1週(5. 2. 15~2. 19)
		名古屋大学(久永)他	2週(5. 2. 21~3. 6)
金容湜(協会)	生物学的モニタリング 中小企業の健康管理等	京都工場保健協会	2ヶ月(5. 2. 22~4. 9)
		京都大学(池田)	1ヶ月(5. 4. 12~5. 9)
安幸億(大学)	重金属、有機溶剤による職業性疾病	慶応大学(桜井)	3ヶ月(5. 1. 11~3. 26)
		関西労働衛生技術センター	1ヶ月(5. 4. 12~5. 14)
		京	2ヶ月(5. 5. 17~7. 16)

C/S方式、渡航費用、滞在費等は韓国側が負担する制度

(2) 健康診断管理

本分野は、日本において実施している総合的な精度管理手法を紹介し、指導するほか、健康診断受信者個人に係るデータのコンピュータによる管理について日本の代表的手法を紹介し、また、韓国におけるデータ管理のやり方について相談に応ずるものである。

平成4年度は、暫定実施計画に従い大韓産業保健協会に対して、関西労働衛生技術センター原田章所長が、平成5年1月24日~28日及び平成5年3月8日から3月14日ま

で、精度管理手法として、健診機関の生体試料分析に係る精度管理手法について技術移転した。

6. 労働衛生研究基盤整備

本分野は、産業医学総合研究所において研究手法が確立し協力可能なテーマのうちから、韓国側が希望するテーマについて手法を紹介し、指導するものであるが、平成4年度は技術移転に該当する事項はない。

7. その他

大韓産業保健協会及び順天郷大学亀尾センターは、韓国労働部から保健管理代行機関の指定を受け、作業環境測定や健康診断について、事業場を指導しているが、この指導を行う職員に対し、労働衛生管理の指導能力の水準の向上を図るため、日本の事業場における労働衛生管理の実態を紹介するものであるが、平成4年度は、技術移転該当事項はない。

8. セミナー開催

JICA 日本諮問官室が開催したセミナーは次のとおりである。

セミナー-實施狀況

(1992年度)

韓日勤勞者職業病豫防事業 日本訪問官室

關係機關	セミナー名	日時	場所	出席者	講義内容 (プロジェクト関係)
公 團	産業換氣技術 セミナー (韓国産業 安全公團, JICA共催)	1993. 3. 2	韓国産業 安全公團 産業安全 教育院講堂	200人 (局排 設置 業者 含む)	・ 佐佐木 首席訪問官 あいさつ ・ 岩崎 専門家 講演 ①『日本の効率的な局 所排氣装置設計と施工 管理方法』 50分 ②『日本の局所排氣装 置實施例』 90分
協 會	韓国産業衛生 學會1993年度 春季學術大會 (大韓産業保 健協會, 韓国 産業衛生學會 JICA, 日本訪 問官室共催)	1993. 3. 12	ソウル パレス ホテル	200人 (學會 會員を 含む)	・ 佐佐木 首席訪問官 あいさつ ・ 奥 専門家 講演 『日本の労働衛生と作 業環境管理について』 90分
大 學	職業病豫防の ための産業 保健學術 セミナー (順天郷大學, JICA共催)	1993. 2. 17 ~ 2. 18	順天郷大學 龜尾病院	50人 (地域 労働衛 生擔當 者を含 む)	・ 佐佐木 首席訪問官 あいさつ ・ 馬場 専門家 講演 ①『日本における中小 企業産業保健管理』 100分 ②『産業保健管理の未 來と展望』 100分 ・ 原田 専門家 講演 ①『日本における職業 性皮膚疾患管理實態と 豫防対策』 100分 ②『低濃度有機溶劑の 長期間暴露についての 健康管理』 100分
		1993. 3. 11 ~ 3. 12	順天郷大學 龜尾病院		近藤 専門家 講演 ①『日本の産業衛生學 の動向』 ②『日本の健康診断の 實際』 ③『日本の産業醫の動 向』 ④『日本における健康 管理活動の現狀』

4. 日本側の協力実績及び計画

本調査団は、1992年（平成5年3月まで）に実施及び実施予定の専門家派遣、研修員受入れ、機材供与等について説明し、韓国側は了解した。なお、韓国側は、建物改修（順天郷大学亀尾センター改修済）及び機材到着準備等の対応を図るため、調査団へ平成4年度供与機材スケジュールの説明および機材早期到着が要望された。調査団は、現在手続き中の機材入札状況、調達及び輸送スケジュールについて説明し、韓国側は了解した。

1992年度技術移転の進捗及び達成状況を踏まえて、調査団と韓国側は、本プロジェクトの1993年度の具体的な実施計画について協議し（暫定実施計画の一部修正）今後も実施協議（R/D）調査で合意された暫定実施計画（T.S.I）に基づき、プロジェクト活動を実施することを双方確認した。

4-1 専門家派遣

(1) 長期専門家

1992年度からチーフ・アドバイザー、業務調整及び労働衛生一般の専門家の計3名派遣中である。このうち労働衛生一般の専門家は、'93年8月末で任期が終了することから、引き続き同分野の後任専門家を1年間派遣することで確認した。

氏名	分野	期間
① 佐々木元茂	(チーフ・アドバイザー)	H4. 9. 1~H6. 8. 31
② 田村光博	(業務調整)	H4. 6. 1~H6. 5. 31
③ 山口誠哉	(労働衛生一般)	H4. 9. 1~H5. 8. 31

(2) 短期専門家

① 原田章	(健康診断精度管理)	H5. 1. 24~H5. 1. 28
② 原田章	(健康診断精度管理)	H5. 3. 8~H5. 3. 14
③ 岩崎毅	(局所排気装置)	H5. 2. 8~H5. 3. 5
④ 原田章	(職業性疾病)	H5. 2. 12~H5. 2. 19
⑤ 馬場快彦	(職業性疾病)	H5. 2. 7~H5. 2. 21
⑥ 近藤東郎	(職業性疾病)	H5. 3. 8~H5. 3. 18
⑦ 興重治	(作業環境測定)	H5. 3. 8~H5. 3. 21

1993年度計画されている分野は次のとおり。

なお、派遣期間は韓国側からの要望期間を記載している。

分野	人数	期間
・労働衛生研究基盤	1名	1M

・局所排気装置	1名	1M
・防毒マスク検定	2名	各2W
・作業環境測定	1名	3M
・職業性疾病	4名	各2W

この他、「健康診断精度管理」分野においては、'92年度の技術移転実施状況が当初計画された段階にまで達していないことから、'93年度も引き続きこの分野の短期専門家派遣を実施するかどうか、今後日本側と韓国側との協議により決定されることで合意した。

4-2 研修員受入れ

1992年度研修員受入れ人数枠は、一般研修6名、Cost Sharing方式1名であり、研修員の氏名及び受け入れ分野は次のとおり。

氏名	分野
① 李 相基	保護具検定
② 孟 承希	変異原性試験
③ 林 哲弘	吸入試験
④ 金 鉉栄	吸入試験
⑤ 安 宰憶	職業性疾病
⑥ 金 容湜	職業性疾病
⑦ 鄭 浩根	職業性疾病(Cost Sharing方式)

1993年度研修員受入れ人数枠は、一般研修5名、Cost Sharing方式2名であり、具体的な研修分野及び内容を調査した結果、暫定実施計画と異なる点があり、次のとおり対応することで双方確認した。

- 1) 順天郷大学：1993年度は「作業環境測定 1名」及び「その他労働衛生管理実態、事業場視察 1名」が落ち、「職業性疾病 1名」増。また「職業性疾病」の研修期間が3ヵ月から6ヵ月に変更。

韓国側は変更理由として、作業環境測定の実態体制は現在整備中であり、'93年度の日本研修に出せる適任のカウンターパートがない。また、喉頭癌、気管支癌の専門家を早急に育成する必要がある。なお、研修期間については、職業性疾病の技術移転には少なくとも6ヵ月の研修期間が必要である。

これに対し調査団は、技術移転策定（専門家派遣、研修員受入れ、機材供与）スケジュールを考慮し、支障があるか今後検討することとし、暫定的に韓国側の要請を踏まえ'93年度の研修員受入れ予定分野を次のとおりとすることで確認した。また、'92年度

日本研修受入れに関して、韓国内の語学試験制度によりカウンターパート受入まで時間を要したことから、韓国側から研修員を派遣する場合は、日本側がスムーズに受入れられるように韓国側の体制を整備するよう申し入れた。

- ・職業性疾病 4名（Cost Sharing 方式 1名含む）
- ・作業環境測定 2名
- ・その他 1名（Cost Sharing 方式）

4-3 機材供与

調査団は、'92年度機材供与について、技術移転計画及び韓国側の希望する優先順位を考慮の上、進めている機材調達状況について説明した。特に輸送スケジュールについては、韓国側の通関準備また、機材据付けの関係から詳細な説明が求められ、調査団から'93年8月頃に韓国へ到着する旨説明し、韓国側は了解した。

なお、韓国側から'93年度機材供与の到着時期についてもっと早めるよう要請された。

これに対し、調査団はプロジェクト技術協力開始にともない機材仕様書の作成及び韓国側との調整に時間を要した旨説明し、日本側としても'93年度機材供与については早期機材調達に向けて努力する旨伝えた。

4-4 ローカルコスト負担

'92年度のローカルコスト負担は、プロジェクト立ち上げに必要な経費及び年度後半に短期専門家による技術移転方法のひとつでもあるセミナー開催に掛かる経費について負担している。プロジェクト活動拠点が3ヵ所に分散していることから、今後、プロジェクト活動が本格化する中で、ローカルコストの負担増が予想されることから、韓国側のプロジェクト運営に必要な予算確保について日本側が確認していく必要がある。

'93年度のローカルコスト負担は、プロジェクト申請に基づき次の現地業務費を計上している。

- ・一般現地業務費
- ・セミナー開催費
- ・現地語教科書作成費（マニュアル類の印刷製本）

付 属 資 料

1. ミニッツ
2. 協議に用いた資料
3. 持ち帰り資料

1. ミニッツ

THE MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE MUTUAL CONSULTATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF KOREA ON THE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR PREVENTION OF OCCUPATIONAL DISEASES

The Japanese Mutual Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Kiyoshi Tanaka, visited the Republic of Korea from March 16 to 24, 1993 for the purpose of smooth and successful implementation of the Technical Cooperation for the Project for Prevention of Occupational Diseases (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay, the Team had exchanged views and had a series of discussions with the Korean authorities concerned in respect of the implementation of the Project.

As a result of the discussions, both sides made the Minutes of Meeting which was attached hereto.

Seoul, March 24, 1993

田中喜代史

Dr. KIYOSHI TANAKA

Leader

Mutual Consultation Team

Japan International Cooperation

Agency, Japan

Ju Hyeon Cho

Mr. JU HYEON CHO

Representative

The Authorities Concerned of the

Government of the Republic of Korea

Director, Ministry of Labour

THE ATTACHED DOCUMENT

I . Review of Progress

1. The aim of this Project is to enhance the function of the Industrial Health Research Institute, Korea Industrial Safety Corporation and to strengthen the function of the Korean Industrial Health Association and Soon-chunhyang University, both of which serve as industrial health management agencies in the Republic of Korea.

2. Both sides agreed that the Project, in general, has been successfully implemented in accordance with the Tentative Schedule of Implementation of the Record of Discussion: (hereinafter referred to as "R/D").

(1) Dispatch of Japanese experts

1) Long-term experts

Both sides confirmed that three (3) Japanese long-term experts stipulated in the ANNEX-II of the R/D have been dispatched in the Japanese fiscal year 1992.

- a. A chief advisor and an expert in General Occupational Health have been dispatched from September, 1992.
- b. A coordinator has been dispatched from June, 1992.

2) Short-term experts

Short-term experts were dispatched for technical transfer of the Project in the following fields :

- a. Medical Examination Management (Quality control) 1 person(twice)
- b. Occupational Diseases 3 persons
- c. Local Exhaust Ventilation System 1 person
- d. Working Environment Management 1 person

K.T

Cho

(2) Training of counterparts in Japan

Both sides confirmed that seven(7) Korean counterpart personnel were accepted in the Japanese fiscal year 1992 in the following fields :

- a. Mutagenicity Test 1 person
- b. Inhalation Test 2 persons
- c. Occupational Diseases 2 persons(including cost-sharing type 1 person)
- d. Group Occupational Health-Care Management 1 person
- e. Examination of Respirators 1 person

(3) Provision of machinery and equipment

The Team explained that the provision of the machinery and equipment planned in the Japanese fiscal year 1992 was in progress.

II. Implementation Schedule of the Project

(1) Dispatch of Japanese experts

1) Long-term experts

The chief advisor and a coordinator have been dispatched and are conducting their assignment. A long-term expert in the field of General Occupational Health will be dispatched for one (1) year when the present expert completes his duties.

2) Short-term experts

Short-term experts will be dispatched in Japanese fiscal year 1993 in the following fields :

- a. Occupational Health Study Infrastructure Arrangement
- b. Local Exhaust Ventilation System
- c. Examination of Respirator
- d. Working Environment Measurement
- e. Occupational Diseases

Remark : Dispatchment of the Medical Examination Management(Quality Control) expert will be discussed.

K.T

Cho

(2) Training of the counterpart personnel in Japan

Korean counterpart personnel of five(5) general training and two(2) cost sharing type will be accepted in Japan in the Japanese fiscal year 1993 to be provided on :

- a. Occupational Diseases 4 persons (including cost-sharing type 1 person)
- b. Working Environment Management 2 persons
- c. Others 1 person (cost-sharing type)

(3) Provision of machinery and equipment

The priorities of items and detailed specifications of the machinery and equipment will be decided through mutual consultation between the Japanese side and the Korean side within the allocated budget in the Japanese fiscal year 1993.

III. Others

Korean side explained that the Headquarter Building of the Korea Industrial Safety Corporation located in Seoul is planned to be moved to Incheon in February 1995.

The Team requested that the Japanese advisor's office should be located in Seoul for smooth implementation of the Project.

Korean side noted that Japanese side's request on the matter would be considered in due course.

K.T

Cho

付 属 文 書

I. プロジェクトの進捗状況

1. プロジェクトの目的は、韓国産業安全公団産業保健研究院の機能を高め並びに大韓産業保健協会及び順天郷大学における健康管理代行機関としての機能強化に資する。
2. 調査団と大韓民国政府関係機関は、プロジェクトが実施協議の暫定実施計画に従って良好に進捗しているという共通認識を得た。

(1) 専門家派遣

1) 長期専門家

双方は、R/Dの別添Ⅱに記載された3名の日本人専門家が1992年度に派遣されていることを確認した。

- a. チーフ・アドバイザーと労働衛生一般の専門家は、1992年9月から派遣されている。
- b. 業務調整員は、1992年6月から派遣されている。

2) 短期専門家

短期専門家派遣を実施した分野は、以下のとおり。

・健康診断精度管理	1名(2回)
・職業性疾病	3名
・局所排気装置	1名
・作業環境測定	1名

(2) カウンターパートの日本研修

1992年度の研修員受入れ枠は7名であり、以下の分野である。

・変異原性試験	1名
・吸入試験	2名
・職業性疾病	2名(C/S方式1名含む)
・集団健康管理	1名
・保護具検定	1名

(3) 機材供与

1992年度供与機材は、日本にて購入手続きが進められている。

II. プロジェクト実施計画

(1) 専門家派遣

1) 長期専門家

チーフアドバイザー、調整員は引き続き派遣される。労働衛生一般の長期専門家は現在の専門家任期終了後、後任の専門家を1年間派遣する。

2) 短期専門家

次の分野の短期専門家は、1993年度に派遣される。

- a. 労働衛生基盤整備
- b. 局所排気装置
- c. 防毒マスク検定
- d. 作業環境測定
- e. 職業性疾病

注：健康診断精度管理の専門家派遣は、今後協議される。

(2) 研修員受け入れ

一般研修員5名 C/S方式2名のカウンターパートが、1993年度に受け入れられる予定である。

- a. 職業性疾病 4名 (C/S方式1名含む)
- b. 作業環境管理 2名
- c. その他 1名 (C/S方式)

(3) 1993年度機材供与

供与機材の詳細な仕様並びに機材優先順位は、1993年度予算の範囲内で日本側と韓国側との間で協議を通して決定される。

III. その他

韓国側は、現在ソウル市内にある韓国産業安全公団本部が、1995年2月に仁川へ移転する計画について説明した。

調査団は、日本諮問官室はプロジェクトのスムーズな実施のため、ソウル市内に日本諮問官室を設置するよう申し入れた。

韓国側は、日本側が要請した移転問題について、適切な時期に検討することを示した。

車庫国動カ方者職業病予防方職業衛生計画打合せ調査団対処方針

国際協力事業団社会開発協力2課

項目	現 状 及 び 問 題 点	対 処 方 針	調 査 結 果
1. プロジェクト実施運営体制について (1) プロジェクトの実施状況 ①施設整備状況	<p>'92.4.13よりプロジェクト方式技術協力が開始(5年間)された。</p> <p>a. 保健研究院 '94.12に公園本部(ソウル)が保健研究院のある敷地内(二川)に建物を建設し、移転する計画がある。これに添う搬材搬入付け及び、現在日本人専門家が常駐している日本諮問官室の移転が危惧される。</p> <p>b. 保健協会 過去の調査においては、レントゲン室の改修計画があるとされていた。</p> <p>c. 順天順大電屋センター 過去の調査においては、巻尾センターを改修中であった。</p>	<p>以下のとおりの対処方針とし、必要な部分についてミニッツに取り留め、署名・交換を行う。</p> <p>平成4年度供与機材購送に際し、各サイトにおいて機材拒付けに支障ないことを施設計画を含め確認する。</p> <p>a. 建設スケジュールを確認するとともに、技術移転計画に関連する施設等の稼働について確認する。</p> <p>また、現在の日本諮問官室の活動内容について調査し、その結果、ソウル市内での稼働が必要であると判断された場合は、韓国側の対応方について確認する。</p> <p>b. 改修計画の実施状況を把握するとともに、適切な放射防護対策の確保に関して韓国側の説明を受ける。</p> <p>c. 改修状況を確認する。</p> <p>なお、上記調査の結果、問題点等あれば協議する。</p>	<p>総括及びミニッツに取りまとめたとおり。</p>
②機材整備状況	<p>1) 日本側が、プロジェクト協力期間中に実施する機材供与計画以外の機材で技術移転の効用および効用を上げるために必要な機材移転の必要性が生じた場合プロジェクト運営をスムーズに行うために、韓国側において予算確保される必要がある。</p> <p>2) 機材に対する保守管理体制について 技術移転対象機関について精密機器等の機材が、どのような保守管理体制になっているか調査の必要がある。 平成4年度供与機材中に保守管理が必要な機材がある場合は、その対応についても調査する必要がある。</p>	<p>機材整備状況について調査・把握する。</p> <p>必要があれば、供与機材計画に挙げている機材以外に必要となる機材整備(新規購入及び充当)に当たっては、原則的に韓国側の予算において対応するよう申し入れる。</p> <p>供与した精密機器にかかわる機材保守管理が必要な場合、技術移転対象機関についてどのような体制が取られているか調査・把握する。必要によっては、対応方について協議する。</p>	
③カウンタパーバート配座状況	<p>各機関ごと及び各分野ごとのカウンタパーバートの配座状況を確認する必要がある。</p>	<p>カウンタパーバートの配座状況また分野ごとのカウンタパーバートについて、調査・確認する。必要によりカウンタパーバートからのヒアリング調査も実施し、問題あれば把握する。</p>	

項 目	現 状 及 び 問 題 点	対 処 方 針	調 査 結 果
①予算措置及び予算確保 ②技術移転状況 ③カウンタパートへの技術移転状況	各機関において、今後技術移転が本格化することから、技術移転に必要 な予算を確保しているか、状況確認する必要がある。 技術協力 の目標及び分野ごとの目標については、別添の通りである。	予算の裏取り、計画を可能な範囲で調査・把握し、問題 点等あれば協議する。 平成4年度技術移転内容を把握し、平成5年度技術移 転計画の状況調査・把握する。 調査の結果、問題点等あれば円滑な技術移転方策につ いて協議する。	
④カウンタパート日本研修 実施状況及び活用状況、評 価	各カウンタパートの日本研修実施状況及びその結果の普及計画につい て、確認する必要がある。	日本研修成果の伝達及び流れについては、今後の計画に ついて把握する。	
⑤短期専門家等による技術移 転状況	技術移転は、暫定実施計画に基づいて実施しているが、現在までの実施 状況に関して、次の問題点がある。 ①派遣予定専門家に韓国側が直接連絡を取ることと情報が混乱し、またた ぎ望まれた技術移転項目と当該専門家の専門分野が食い違つたというよ うな問題が生じた。 ②職業性技術専門家の派遣人数が多いので、今後、技術移転内容が重複 する恐れがある。 ③短期専門家の指導内容及び日本研修の内容を韓国側としてどのよう に評価しているか把握する必要がある。	①日本側との連絡等は、チーフアドバイザーを中心にし た連絡体制を統一するよう韓国側へ申し入れる。 ②今後派遣する専門家の具体的技術移転内容について、 日本人専門家と韓国側との間で可能な限り全体的に検 討するよう韓国側へ申し入れる。 ③チーフアドバイザーが韓国側と協議することにより、 把握に努める事とする。	
(3)日本側投入計画内容 ①専門家派遣	1) 長期専門家3名派遣中。 佐々木元成(チーフアドバイザー) 田村光博(業務調整) 山口誠哉(労働衛生一般) *平成5年8月31日まで派遣期間 2) 短期専門家 公団 ・ 労働衛生研究基礎整備 ・ 局所排気装置 * (防塵マスク検定) ・ 防塵マスク検定 ・ 作業環境測定 ・ 健康診断精度管理 ・ 職業性疾患(じん肺) ・ 職業性疾患(腰痛) ・ 職業性疾患(職業がん) ・ 職業性疾患(VDT症候群) ・ 職業性疾患 * 防塵マスク検定の分野は、技術移転の対象としない事としている。 また、健康診断精度管理の分野は、暫定実施計画において平成5年 度分に計画されていない。	労働衛生一般の後任派遣については、任期1年間とし て派遣予定である。 平成5年度短期専門家派遣要望分野については、左記 のとおりであり、以下のことに留意し承認する。 なお、A1フォーラムの準備作成を韓国側へ依頼する。 また、短期専門家要望内容において、リクルート関 係上及び技術内容等で不明な点があれば調査・確認する。 ・ 「防塵マスク検定」の専門家が2名同時に必要な理由 として、化学と機械(物理)の分野が必要であるため とあり、当該専門家は、防塵マスクの分野も指導可能で あることから、当初の予定通り「防塵マスク検定」2名 とし、実際の通用で韓国側の要望に対応することを韓 国側に説明する。 ・ 「健康診断精度管理」については、平成4年度の実績 と平成5年度の計画内容とを踏まえ暫定計画の平成7年度 の前倒しとして派遣することを韓国側へ説明する。	

項 目	現 状	状 況	及 び	問 題	点	対 処	方 針	調 査 結 果
②カウティングパートナー日本研修受入れ	<p>御国側の平成5年度日本研修受入れ枠を5名+2名(C/S方式)で要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業性疾病 (C/S方式) 3か月 ・ 作業環境測定 3か月 ・ 作業環境測定 3か月 ・ 職業性疾病 (C/S方式) 2週間 ・ 職業性疾病 6か月 ・ 職業性疾病 6か月 	<p>暫定実施計画と異なる分野及び内容は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協会の「職業性疾病 2週間」は、計画に無く「その他、労働衛生管理実態、事業場視察 2週間」となっている。 ・ 大学の「職業性疾病 2名」は、計画では1名となっている。 ・ 計画では、大学に「作業環境測定 1名」及び「その他、労働衛生管理実態、事業場視察 2週間」があるが、要望に無い。 ・ 大学の「職業性疾病 6か月」は、計画では3か月となっている。 	<p>大学における職業性疾病分野2名の要望が技術移転上支障がないか調査・把握する必要がある。</p> <p>また、平成4年度日本研修受け入れに關して、御国内の語学試験制度により、カウティングパートナー受入まで時間を要した。</p>	<p>平成4年度供与機材については、平成5年3月上旬頃入札予定。入札結果後、平成5年度供与機材について、至急調整する必要がある。(平成4年度及び5年度機材計画の機材仕組書は、平成4年度に作成済である。)</p>	<p>平成5年度 一般現地業務費及びセミナー開催費の要請書が提出された</p>	<p>日本研修員受入れ枠は、現在交渉中であるため、追って、決定人数を通知する旨伝える。</p> <p>御国から研修員を派遣する場合には、日本側がスムーズに受入れられるように御国側の体制を整備するよう申し入れる。</p> <p>なお、次の点について留意し、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協会の「職業性疾病 2週間」は、計画の「その他、労働衛生管理実態、事業場視察 2週間」と同じ内容であることを確認する。 ・ 大学の「作業環境測定 1名」及び「その他、労働衛生管理実態、事業場視察 2週間」が落ち、「職業性疾病」1名増になった理由を確認する。 ・ 大学の「職業性疾病」が6か月となった理由も併せて確認する。 <p>調査の結果、問題点等あれば協議する。また、結果に基づき、A2・3フォーラムの準備作成を御国側へ依頼する。</p>	<p>御国側へ平成4年度機材供与の調達状況について説明し、また、平成5年度機材供与について、至急日本人専門家と調整するよう依頼する。機材供与年度別計画に技術移転上、支障ないか把握する。</p> <p>なお、問題あれば必要に応じて協議する。</p> <p>A4フォーラムの準備作成を御国側へ依頼する。</p>	<p>プロジェクト運営及び活動に必要と認められる内容について承認する旨伝える。</p> <p>巡回手続きで問題等あればその対応について、協議する。</p>
③機材供与								
④ローカルコスト負担								
(4) その他必要事項								
①機材通関								

2. 協議に用いた資料

韓日勤労者職業病豫防事業實施狀況

(1992 年度)

韓日勤労者職業病豫防事業

日本総務官室

1. 長期専門家活動

分野	氏名 (所属)	関係機関	活動期間
リーダー 調整員 労働衛生一般	依佐木元茂 (労働省)	公團, 協会, 大学	4. 9. 1 - 6. 8. 31
	田村光博 (国際協力サービスセンター)	公團, 協会, 大学	4. 6. 1 - 6. 5. 31
	山口敏哉 (筑波大学名誉教授)	公團 (産業保健研究院)	4. 9. 1 - 5. 8. 31

2. 短期専門家活動 (平成4年度分 : 6名)

分野	氏名 (所属)	テーマ	関係機関	活動期間
作業環境測定	奥 重治 (中災防労働衛生検査センター 所長)	測定, 評価手法	協会	2週 (5.3.8 - 5.3.21)
局所排気装置	岩崎 毅 (労働省産医研主任研究官)	設計手法	公團	1か月 (5.2.8 - 5.3.5)
職業性疾病	馬場快彦 (馬場労働衛生コンサルタント事務所 所長)	集団健康管理, 日本の労働衛生の動向, 健康配慮義務等	大学	2週 (5.2.7 - 5.2.21)
	原田 章 (關西労働衛生技術センター 所長)	職業性皮膚障害, 低濃度有機溶剤中毒等	大学	2週 (5.2.12 - 5.2.19)
	近藤東郎 (慶應大学医学部客員教授)	健診結果の評価, 産業看護婦の教育, 健康度の評価	大学	2週 (5.3.8 - 5.3.18)
健康診断管理	原田 章 (關西労働衛生技術センター 所長)	精度管理手法 (健診機関の生体試料分析に係る精度管理手法)	協会	2週 (2回に分けて実施) 1回目 5.1.24 - 5.1.28 2回目 5.3.8 - 5.3.14

3. カウンターパート日本研修 (平成4年度分 : 7名)

分野	氏名 (所属)	テーマ	研修先	研修期間
保護具検定	李家基 (公團)	検定手法	労働省産医研	6か月 (平成5年3月30日 ~)
変異原性試験	孟 承希 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10か月 (4.11.2 - 5.9.14) (計1年, 4.9.21 - 5.9.20)
吸入試験	林 哲弘 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10月 (5.4.6 - 6.2.11) (計1年)
	金 鉉榮 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10月 (5.4.6 - 6.2.11) (計1年)
職業性疾病	鄭 浩根 (公團) (C/S方式)	職業性疾病の研究, 診断及び管理	産業医科大学 (加地) 名古屋大学 (久永) 他	1週 (5.2.15 - 5.2.19) 2週 (5.2.21 - 5.3.6) (計1か月, 5.2.1 - 5.3.9)
	金 容湜 (協会)	生物学的モニタリング 中小企業の健康管理等	京都工場保健会 京都大学 (池田)	2か月 (5.2.22 - 5.4.9) 1か月 (5.4.12 - 5.5.9) (計3か月, 5.2.15 - 5.5.12)
	安 宰億 (大学)	重金属, 有機溶剤 による職業性疾病	慶應大学 (櫻井) 關西労働衛生技術センター 京都工場保健会	3か月 (5.1.11 - 5.3.26) 1か月 (5.4.12 - 5.5.14) 2か月 (5.5.17 - 5.7.16) (計6か月, 5.1.4 - 5.7.21)

韓日勤労者職業病豫防事業實施計劃

(1993 年度)

韓日勤労者職業病豫防事業

日本諮問官室

1. 長期専門家活動

分野	氏名(所属)	関係機関	活動期間
リーダー 調整員 労働衛生一般 労働衛生一般	佐佐木元茂(労働省)	公團, 協会, 大学	4. 9. 1 - 6. 8. 31
	田村光博(国際協力サービスセンター)	公團, 協会, 大学	4. 6. 1 - 6. 5. 31
	山口威哉(筑波大学名誉教授)	公團 産業保健研究院	4. 9. 1 - 5. 8. 31
	後任者	公團 産業保健研究院	5. 9. 1 - 6. 8. 31

2. 短期専門家活動(平成5年度分 : 10名)

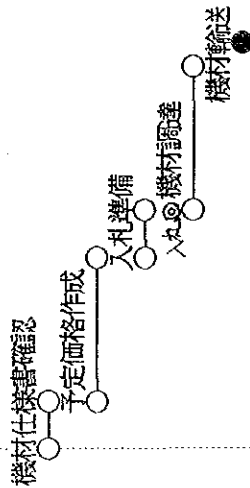
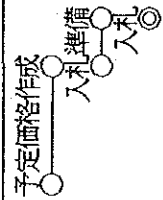
分野	氏名(所属)	テーマ	関係機関	活動期間
労働衛生研究 基盤整備		神経毒性物質による 勤労者健康障害評価	公團	93. 5 (1か月)
局所排気装置		局所排気装置設計	公團	94. 1 (1か月)
防護マスク検定		防護マスク検定手法	公團	93.10 (2週間)
防毒マスク検定		防毒マスク検定手法	公團	93.10 (2週間)
作業環境測定		具體的測定手法(實技を含む)	協会	94. 2 (3か月)
健康診断 精度管理		資料の作成, 取扱及び 分析手法	協会	(1か月)
職業性疾病		塵肺	大学	93. 6 (2週間)
職業性疾病		腰痛	大学	93. 8 (2週間)
職業性疾病		職業癌	大学	93. 9 (2週間)
職業性疾病		VDT症候群	大学	93.12 (2週間)

3. カウンターパート日本研修(平成5年度分 : 7名)

分野	氏名(所属)	テーマ	希望研修先	研修希望期間
職業性疾病	姜聖圭(公團)		慶醫大, 京大	93. 12 ~ 94. 2
作業環境測定	吳道編(公團)		(社)日測協	93. 4 ~ 93. 7
作業環境測定	朴厚根(協会)		京都工場保健會	94. 3 ~ 94. 5
職業性疾病	金洙根(協会)		京都工場保健會, 京大	94. 3 ~ 94. 5
その他	李明淑(協会)		事業場視察	94. 3 (2週間)
職業性疾病	張赫淳(大学)		佐賀大学, 京都工場保健會	93. 4 ~ 93. 9
職業性疾病	禹克鉉(大学)		韓西労働衛生技術センター	93. 8 ~ 94. 1

機材供与実施スケジュール

	'93/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	94/1	2	3	備	考
1992年度 機材供与			予定価格作成	入札準備	入札												1. 機材仕様内容を2種類に分けて購送手続き中。 ①医業機材関係 ②その他の機材関係 2. 輸送時期については、機材調達状況によるため場合によっては、分割輸送も検討中。
1993年度 機材供与																	



大韓産業保健協會導入希望機資材

1992. 10. 26

分野	優先順位	装 備 名	個 数	型 式
作業環境測定	1	原子吸光光度計	1	Z-8100, AA-6500
	2	ガスクロマトグラフ	1	GC-14BPF8 G-3000FLD/BCD
	3	光電分光光度計	1	O-3210, VV-2201
	4	位相差顕微鏡	1	Y2F-Ph-21
	5	ローバリュウム エアサンプラ-	5	C.20
	6	ハイバリュウム エアサンプラ-	5	HVS-500-5S
	7	デジタル 粉じん計	5	P-5HZ
	8	濕式ガヌメータ-	1	W-NK-10A
	9	小型バブラーゼット	5	8010-1
	10	ミゼット イン ピンジャー	5	8003-05
	11	定流量 ミニポンプ	5	MP-301CFT
	12	シリカグル管(120本)	5	8015-063
	13	活性炭管(120本)	5	8015-053
	14	流量計	10	2833-01
	15	真空捕集ビン	10	8010-0510
	16	真空 ポンプ	1	GVP-135A
	17	ガヌ捕集袋(5ℓ)	5	8010-5000
	18	ガヌ捕集袋(10ℓ)	5	8010-10000
	19	ガヌ捕集箱	1	8010-072
	20	ガヌ検知管	5	400S, etc
	21	排氣又は排水處理のため装備	1	DS-111B & DP-50

大韓産業保健協会導入品目表

1992. 10. 28

分野	優先順位	装置名	個数	型式	希望型式	理由
職業性疾患	①	血液生化学自動分析装置	1		AU-5021 (OLYMPUS)	職業性疾患を検査する際には肝臓癌検査 腎臓, 脾臓などの生化学検査を主にする ようにする必要があります 本協会としては最優先 備えなければならぬ 装置です 本協会の検査検体数が多量 (CENTER 1日 平均検体数 約2,000件) ですから 24項目を 同時に処理できるような Multi-typeの Olympus Model AU5021が欲しい。
	②	自動血球計算機	1	K-1000	K-1000	X-1090 ①PDA(SFU-1)付帯, ②RH-810特別付属品類。
	③	X-RAY撮影機 (直接)	1	DHF-155H, etc VD 150L, etc ZX0-30R, etc	SHIMADZU 1200	現在仕様は CHESTだけに 使用するように 構成して いますが 現在 私達が 必要な装置 は 胸部撮影を 撮影すること, 出来るし CHEST撮影も, 可能な 物が 必要ですので 一般GENERATORを REMOTE用GENERATORに 取り換えて下さい, また 透視形TABLEも 追加するように お願い致します 日本側で 提示して 下さった 仕様(機材)は 胸部撮影が 不可能で(自動車装置用) 本 協会では 室内装置用が 必要です。
	④	オートスバイロメータ	1	DISCON-21FK	DISCON-21FK	
	⑤	オートガイリユクタ	1	FASTEC 405, 501-96	FASTEC 405	
	⑥	心電計	1	ECG-8353	ECG-8353	
	⑦	トレイミキサ-	1	NO. 40, 360, PIX-04	FX-511 (FUJIREBIO)	
	⑧	顕微鏡	1	BHS-323	BHS-323	
	⑨	身長, 体重計	1	EWS-200	EWS-200	
	10	共用自動現像装置	1	SRX-501A	SRX-501A	
	11	自動視力検査器	1	QH-A3300	QH-A3300	
	12	電子形型血式血圧計	1	AA-72	AA-72	
	13	電子形型血式血圧計	1	BP-8800	BP-8800	
	14	蛍光光度計	1	F-2000, RF-5000	F-2000, RF-5000	
	15	X-RAY撮影機 (間接)	1	JAB-200, "238"	JAB-200, "238"	現在 韓国で 市販して います もっとも 使用 に 熟練して いる 機械です 健康診断を実施する時 事務場で 移動して X-線照射撮影をする時 必要な装置です, (1日 CENTER 約 40PERSONS/DAY)
	16	血液 GAS 分析機	1			
	17	蛍光光度計	1			

①. ④血液生化学自動分析装置 ⑤ 分光光度計 ⑥ X-RAY撮影機 (間接機)は 1992年 10月14日 別添 2 紙で通報を受けた本件書類

中にありません。

順天郷大學校
集團産業保健管理研究所

機資材 優先順位と その理由

番 號	機 械 名	優先順位	理 由
18.	原子吸光光度計	①	作業環境管理 及び 集團産業保健管理 業務に 必須的ですが 現在 未保有
17.	Gas Chromatograph	②	
19.	直視天ビン	③	
22.	心電計 3 Channel	④	2次 精密検査 機能強化
29.	血液生化学自動分析装置	⑤	勤勞者 集團健康管理のPROGRAM 分析 業務 加重
30.	自動血球計算機	⑥	
26.	X-Ray 撮影(直撮)	⑦	2次 精密検査 機能強化
27.	共用自動現像機	8	"
28.	腹部用超音波診断装置	⑨	"
36.	身長體重計自動式	⑩	
*	U.G.I 専用 X-ray 撮影機	11	勤勞者の胃腸症状 呼訴率が 多く その 有病率も 15%程度で 大變 高い 實情です ので 消化器 疾患 2次精密診断用で 必須的 裝備です.
*	Nonmydriatic Fundus Camera	12	高血壓 患者管理のため 2次 精密検査 必須裝備ですが 未保有
21.	Draft Chamber	⑬	分析業務に 必須的
20.	純水製造装置	⑭	
23.	Audiometer	⑮	2次 精密検査 機能強化
24.	1000, 4000 集検用聴力計	⑯	定期健康診断 機能強化

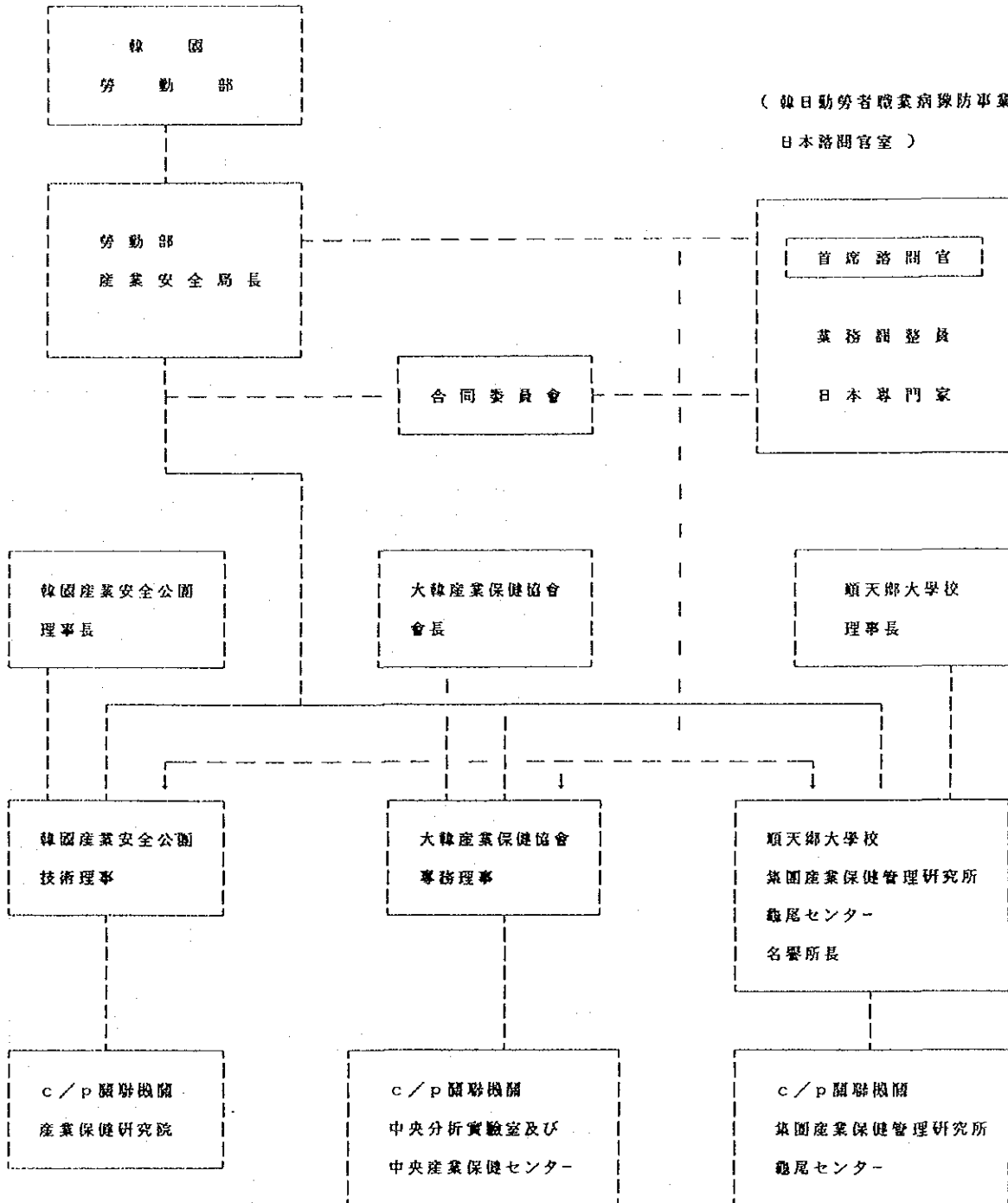
番 號	機 械 名	優先順位	理 由
1.	High Volume Air Sampler	①7	作業環境測定 必須装備
2.	Wet rotary Gas meter	①8	"
3.	Low Volume Air Sampler	①9	"
4.	Digital Dust Indicator	②0	"
5.	Miniature Bubbler Set	②1	"
6.	Midget Impinger	②2	"
7.	Mini Pump	②3	"
8.	Silica Gel Tube	②4	"
9.	Charcoal Tube	②5	"
10.	Flowmeter Bottle	②6	"
11.	Vacuum 捕集ビン	②7	"
12.	Vacuum Pump	②8	"
13.	Gas 捕集袋 (5L)	②9	"
14.	Gas 捕集袋 (10L)	③0	"
15.	Gas 捕集袋	③1	"
16.	光電分光光度計	③2	
25.	Automatic spirometer	③3	
31.	冷却 遠心機	34	
32.	落射蛍光顕微鏡	35	
33.	雙眼顕微鏡	36	
34.	超低温槽	37	
35.	運動負荷呼吸機能装置	38	
37.	蛍光光度計	39	
38.	直間兼用レントゲンバス	40	

3. 持ち帰り資料

韓日勤勞者職業病豫防事業 組織圖

1992. 4. 13

(韓日勤勞者職業病豫防事業
日本諮問官室)



韓日勤勞者職業病豫防事業實施狀況

(1992 年度)

韓日勤勞者職業病豫防事業

日本諮問官室

1. 長期専門家活動

分野	氏名 (所属)	関係機関	活動期間
リーダー 調整員 労働衛生一般	佐佐木元茂 (労働省)	公團, 協会, 大學 公團, 協会, 大學 公團 (産業保健研究院)	4. 9. 1 - 6. 8. 31
	田村光博 (国際協力サービスセンター)		4. 6. 1 - 6. 5. 31
	山口誠哉 (筑波大學名譽教授)		4. 9. 1 - 5. 8. 31

2. 短期専門家活動 (平成4年度分 : 6名)

分野	氏名 (所属)	テーマ	関係機関	活動期間
作業環境測定	奥重治 (中災防労働衛生検査センター所長)	測定, 評価手法	協会	2週 (5.3.8 - 5.3.21)
局所排気装置	岩崎毅 (労働省産医研主任研究官)	設計手法	公團	1か月 (5.2.8 - 5.3.5)
職業性疾病	馬場快彦 (馬場労働衛生コンサルタント事務所所長)	策劃健康管理, 日本の労働衛生の動向, 健康配慮義務等	大學	2週 (5.2.7 - 5.2.21)
	原田章 (關西労働衛生技術センター所長)	職業性皮膚障害 低濃度有機溶剤中毒等 これらもまだ未了である	大學	2週 (5.2.12 - 5.2.19)
	近藤東郎 (慶應大學醫學部客員教授)	健診結果の評価, 産業看護婦の教育, 健康度の評価	大學	2週 (5.3.8 - 5.3.18)
健康診断管理	原田章 (關西労働衛生技術センター所長)	精度管理手法 (健診機関の生體試料分析に係る精度管理手法)	協会	2週 (2回に分けて実施) 1回目 5.1.24 - 5.1.28 2回目 5.3.8 - 5.3.14

3. カウンターパート日本研修 (平成4年度分 : 7名)

分野	氏名 (所属)	テーマ	研修先	研修期間
保護具検定	李敬基 (公團)	検定手法	労働省産医研	6か月 (平成5年3月30日 ~)
○ 變異原性試験	孟承希 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10か月 (4.11.2 - 5.9.14) (計1年, 4.9.21 - 5.9.20)
吸入試験	林哲弘 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10月 (5.4.6 - 6.2.11) (計1年)
	金絃榮 (公團)	試験手法	バイオアッセイセンター	10月 (5.4.6 - 6.2.11) (計1年)
○ 職業性疾病	鄭浩根 (公團) (C/S方式)	職業性疾病の研究, 診断及び管理	産業醫科大學 (加地) 名古屋大學 (久永) 他	1週 (5.2.15 - 5.2.19) 2週 (5.2.21 - 5.3.6) (計1か月, 5.2.1 - 5.3.9)
	○ 金容湜 (協会)	生物學的モニタリング 中小企業の健康管理等	京都工場保健會 京都大學 (池田)	2か月 (5.2.22 - 5.4.9) 1か月 (5.4.12 - 5.5.9) (計3か月, 5.2.15 - 5.5.12)
	○ 安宰億 (大學)	重金属, 有機溶剤 による職業性疾病	慶應大學 (櫻井) 關西労働衛生技術センター 京都工場保健會	3か月 (5.1.11 - 5.3.26) 1か月 (5.4.12 - 5.5.14) 2か月 (5.5.17 - 5.7.16) (計6か月, 5.1.4 - 5.7.21)

セミナー-實施狀況

(1992年度)

韓日勤勞者職業病豫防事業 日本諮問官室

關係機關	セミナー名	日時	場所	出席者	講義内容 (プロジェクト關係)
公團	産業換氣技術 セミナー (韓國産業 安全公團, JICA共催)	1993. 3. 2	韓國産業 安全公團 産業安全 教育院講堂	200人 (局排 設置 業者 含む)	・ 佐佐木 首席諮問官 あいさつ ・ 岩崎 専門家 講演 ①『日本の効率的な局 所排氣装置設計と施工 管理方法』 50分 ②『日本の局所排氣装 置實施例』 90分
協會	韓國産業衛生 學會1993年度 春季學術大會 (大韓産業保 健協會, 韓國 産業衛生學會 JICA, 日本諮 問官室共催)	1993. 3.12	ソウル パレス ホテル	200人 (學會 會員を 含む)	・ 佐佐木 首席諮問官 あいさつ ・ 興 専門家 講演 『日本の労働衛生と作 業環境管理について』 90分
大學	職業病豫防の ための産業 保健學術 セミナー (順天郷大學, JICA共催)	1993. 2.17 ~ 2.18	順天郷大學 龜尾病院	50人 (地域 労働衛 生擔當 者を含 む)	・ 佐佐木 首席諮問官 あいさつ ・ 馬場 専門家 講演 ①『日本における中小 企業産業保健管理』 100分 ②『産業保健管理の未 來と展望』 100分 ・ 原田 専門家 講演 ①『日本における職業 性皮膚疾患管理實際と 豫防對策』 100分 ②『低濃度有機溶劑の 長期間暴露についての 健康管理』 100分
		1993. 3.11 ~ 3.12	順天郷大學 龜尾病院		近藤 専門家 講演 ①『日本の産業衛生學 の動向』 ②『日本の健康診断の 實際』 ③『日本の産業醫の動 向』 ④『日本における健康 管理活動の現状』

韓日勤勞者職業病豫防事業實施計劃

(1993 年度)

韓日勤勞者職業病豫防事業

日本訪問官室

1. 長期専門家活動

分野	氏名 (所屬)	關係機關	活動期間
リーダー	佐佐木元茂 (勞動省)	公團, 協會, 大學	4. 9. 1 - 6. 8. 31
調整員	田村光博 (國際協力サービスセンター)	公團, 協會, 大學	4. 6. 1 - 6. 5. 31
労働衛生一般	山口誠哉 (筑波大學名譽教授)	公團, 産業保健研究院	4. 9. 1 - 5. 8. 31
労働衛生一般	後任者	公團, 産業保健研究院	5. 9. 1 - 6. 8. 31

2. 短期専門家活動 (平成5年度分 : 10名)

分野	氏名 (所屬)	テーマ	關係機關	活動期間
労働衛生研究 基礎整備		神経毒性物質による 勤勞者健康障害評價	公團	93. 5 (1か月)
局所排気装置		局所排気装置設計	公團	94. 1 (1か月)
防毒マスク検定		防毒マスク検定手法	公團	93. 10 (2週間)
防毒マスク検定		防毒マスク検定手法	公團	93. 10 (2週間)
作業環境測定		具體的測定手法 (實技を含む)	協會	94. 2 ~ (3か月)
健康診断 精度管理		資料の作成, 取扱及び 分析手法	協會	(1か月)
職業性疾病		塵肺	大學	93. 6 (2週間)
職業性疾病		腰痛予防管理	大學	93. 8 (2週間)
職業性疾病		職業癌	大學	93. 9 (2週間)
職業性疾病		VDT症候群	大學	93. 12 (2週間)

3. カウンターパート日本研修 (平成5年度分 : 7名)

分野	氏名 (所屬)	テーマ	希望研修先	研修希望期間
職業性疾病	姜星圭 (公團)		慶醫大, 京大 (c/s)	93. 12 ~ 94. 2
作業環境測定	吳道錫 (公團)		(社) 日測協	93. 4 ~ 93. 7
作業環境測定	朴厚根 (協會)		京都工場保健會	94. 3 ~ 94. 5
職業性疾病	金泳根 (協會)		京都工場保健會, 京大	94. 3 ~ 94. 5
その他	李明淑 (協會)		事業場視察 (c/s)	94. 3 (2週間)
職業性疾病	張赫淳 (大學)		九州大學, 京都工場保健會	93. 4 ~ 93. 9
職業性疾病	禹克鉉 (大學)		關西労働衛生技術センター	93. 8 ~ 94. 1

韓國産業安全公團

1993. 3. 15 現在

1. プロジェクト分野別 C/P 配置現況

分野	氏名	年齢	職務	資格	経歴年数	日本側 C/Pとの 職務分擔内容	日語 能力	備 考
○ 作業環境 測定	吳世敏	53歳	産業衛生 研究室長	薬学博士	産業保健 15年	日本 短期専門家の 技術移轉のための の諸般與件の造成	中	
○ 局所排気	朴東旭	32歳	産業衛生 研究室 選任 研究員	保健 學士 修 士	産業保健 5年	換気装置設計技法 及び定期自主検査 技法の技術傳受 與件造成及び傳播	下	
○ 保護具 檢定	李相基	36歳	産業安全 研究院 選任 研究員	化学修士	'93. 3月 日本研修 豫定	保護具檢定の技術 傳受のための機材 整備等の與件造成	中	
○ 有害性 調査								
- 吸入 試験	俞日在	38歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 責任 研究員	臨床病理 學 修 士	-	實驗用動物を 扱う短期吸入 實驗方法の技術 傳受のための 機材確保等の 與件造成	中	
	林哲弘	28歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 研究員	生體安全 性化学 修 士	'93. 3 ~ '94. 2 日本研修	實驗用動物を 扱う短期吸入 實驗方法の技術 傳受のための 機材確保等の 與件造成	中	
- チャン バ運営	金鉉榮	36歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室 選任 研究員	化 工 學士 修 士	'93. 3月 日本研修 豫定	日本研修後産業 保健研究院チャン バの設置及び管理	中	
- 變異原 性實驗	孟承希	32歳	産業保健 研究院 産業毒性 研究室	産 業 學士 毒 性 修 士	'92. 8 ~ '93. 9 日本研修	Ames試験 染色體 異常試験基盤造成	中	
○ 労働衛生 一般	鄭奎澈		産業保健 研究院 院長	豫防醫學士 博 士	-	産業保健研究院の 研究體制, 研究 方向整備	上	

分野	氏名	年齢	職務	資格	経歴年数	日本側 C/Pとの 職務分擔内容	日語 能力	備 考
○ 健康管理 - 健康 診断	姜星圭	34歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-首席 研究員	家庭醫學 専門醫	産業保健 4年	健康診断事後管理 のための資料管理 方法等の整備	中	
- 職業性 疾病	鄭浩根	47歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-所長	豫防醫學 博士	'93.2.1 ~ 3. 9. 日本研修	職業起因性疾病に ついて日本におけ る最新知識、技術 情報習得及び傳播	中	
○ 労働衛生 研究基盤 整備	鄭浩根	47歳	産業保健 研究院 職業病 診断セン ター-所長	豫防醫學 博士	'93.2.1 ~ 3. 9. 日本研修	日本研修内容の傳 播及び最新知識、 技術情報の技術傳 受	中	

2. '93年度技術傳受分野に係わる機材の保有及び購入豫定状況

分野	既 保 有		構 入 豫 定 ('93)		備 考
	機 器 名	数 量	機 器 名	数 量	
○ 作業環境 測定	Personal Air Sampler	22	○ 有機溶剤測定捕獲器	4sets	
	Sound Assessment System	1	○ Anemometer	2種	
	W.B.G.T	1	○ Manometer	4sets	
	Personal Cascade Impactor	9	○ CD, ECD	1臺	
	Pacticle Density Analyzer	1	○ ICP-AES	1臺	
	Konimeter 等 121種	227			
	Gas Chromatograph	3			
	A.A.S	5			
○ 有害性 調査	Furnace Automizer等 218種	305			
	無菌艦	1	○ HPLC Auto-sampler	1臺	
	ヘモサイトメーター	2	○ 自動コロニ計數機	1臺	
	ビーベッエイド	2			

分野	既 保 有		構 入 豫 定 ('93)		備 考
	機 器 名	数 量	機 器 名	数 量	
○ 健康管理	高速遠心分離機	1			
	コロニカウンタ	10			
	高壓滅菌機	1			
	Blood Gas Monitor	1	○ Capillary Electro-phoresis System	1set	
	放射線計数機	1	○ Hematocrit用 遠心分離機	1 臺	
	多用度計測機	1	○ Microcentrifuge	1 臺	
	自動血壓機	14	○ Cell seperator	1 臺	
	振動血球計数機	1	○ 自動視力測定機	1 臺	
	X-Ray フィルム 現象機	1	○ 皮膚血流測定機	1 臺	
	ジクアプロトポピリン	1	○ 水分蒸發測定機	1 臺	
	インピダンス測定機	1	○ 皮膚色素検査機	1 臺	
	自動生化学分析装置		○ 定量式 噴霧吸引機	1set	
	純音聴力機		○ 肺機能検査機	1set	
		○ 気管支誘發検査	1set		

3. '93年度技術移轉場所別，分野別豫算内譯

分野	技術移轉場所名	'93 豫算内譯
	計	392,964,000W
○ 保護具検定	産業保健研究院	○ 材料費 23,620,000W ○ 公機構備品購入 184,630,000W ○ 受容費手数料 10,090,000W
○ 労働衛生研究基盤造成	産業保健研究院	○ 材料費 6,384,000W ○ 公機構備品購入 118,500,000W ○ 受容費手数料 9,763,000W
○ 其他		○ 専門家 受容 : 2,132,000W ○ 研修生 派遣 : 17,845,000W

大韓産業保健協會

1. プロジェクト分野別カウンタパート配置状況

(機關名 : 大韓産業保健協會)

分 野	氏 名	年 齡	資 格	經 歴 年 數	日 本 側 C/P と の 職 務 分 擔 内 容	備 考
作業環境測定	李政煥	58	産業衛生技術士	30	協會韓日協力事業總括 補助 行政全擔, 裝備選定 測定, 評價 有害物精度管理 測定, 評價 測定, 評價 測定評價補助	
	金正男	50	化學專攻	20		
	任昌浩	36	産業衛生1級	13		
	金錫源	37	環境棋士1級	10		
	金在雄	40	環境棋士1級	12		
	朴厚根	33	産業衛生1級	6		
	金鍾寬	26	環境棋士2級	4		
○ 職業性疾病	趙英瑠	70	豫防醫學專門醫	45	通譯, 業務指導	
	河銀姬	30	豫防醫學專門醫	6	職業性疾病	
	楊達先	63	豫防醫學專門醫	36	協力事業管理	
	金洙根	32	豫防醫學專門醫	6	職業性疾患	
	金容湜	35	豫防醫學專門醫	9	協力事業管理, 職業性疾患	
	金哲雄	51	臨床病理技士	25	行政及び精度管理 技術傳達 精度管理検査業務 精度管理検査業務	
	孫昌根	30	臨床病理技士	9		
	李玼烈	28	臨床病理技士	7		

2. '93年度技術移轉場所別, 分野別豫算内譯

(機關名 : 大韓産業保健協會)

技 術 移 轉 場 所 名	'93 豫 算 内 譯
ソウル中央センター	韓日技術協力裝備 關稅, 運搬費及び設置費用 100,000,000

ソウル支部建物改築（案）

1. 建物改築必要性

- 韓日技術移転に伴って機材追加流入による中央分析室場所不足
- 既存健康診断と院内検針増加に伴う診療場所狭小
- 保健管理課人員増員による現受容限界超過
- 既存建物場所狭小のため医療機関としての諸般機材配置不適合

2. 建物改築概要

- イ. 所在地：九老區加里峰洞60-50
- ロ. 工事名：ソウル支部建物改築工事
- ハ. 工事期間：'93. 3. 1～'93. 5. 30（3箇月予定）
- ニ. 設計完成日：'93. 2. 20頃
- ホ. 建物改築許可：'93. 3月末日
- ヘ. 改築建物概要

土 地	183 坪		
建 物	既存部分	増築部分	合 計
	165.07坪	203.26坪	368.33坪

3. 建物改築総工事費予想額及び資金確保方案

イ. 総工事費予想額

總坪數	坪當豫想額	算 出 根 據	總工事費豫定額	備 考
203坪	2,000	$203 \times 2,000$	406,000	冷暖房 中央供給方式

ロ. 資金確保方案

區 分	金 額	備 考
食堂貸貸保證金	200,000	
支部未收金充當	106,000	
本部支援金	100,000	
計	406,000	

3. '93年度技術移轉分野と關聯機材保有及び購入豫定現況

(機關名 : 大韓産業保健協會)

分 野	其保有及び購入豫定機資材名	規 格	數 量	備 考
職業性疾病 作業環境測定	別 添 1. 2			

別添 1.

193年度技術傳受分野と關聯された機材保有現況

檢診裝備	センター			測定裝備	センター		
	品名	ソウル	釜山		光州	品名	ソウル
X-RAY 撮影機	3	2	3	V.B.G.T	6	3	1
X-RAY AUTO PROCBSOR	1	1	1	β DETECTOR	3	1	2
CENTRIFUGE	4	6	3	GAS CHROMATOGRAPH	2	1	1
AUDIO METER	6	3	3	A.A SPECTROPHOTOMETER	2	1	1
R. C. G	2	2	3	ULTRA VIOLET LAMP	2	1	1
SPIRO METER	2	2	2	HOT WIRE ANEMOMETER	3	3	2
REFRACTO METER	1	2	1	CO DETECTOR	1	1	1
SPECTROPHOTOMETER	3	4	4	PHOTOIONIZATION G.C	1	1	
GLUCO METER	4	4	3	CALIBRATOR	1		2
BLOOD ROLL MIXER	2	1	1	UV - IR	1	1	1
BLOOD CELL COUNTER	1	1	2	VIBRATION LEVEL METER	2	1	
白血球百分率計算機	1	1	1	DIGITAL ABSORAL MONITOR	1		
白血球計算版	1	1	1	DIGITAL PU METER	1		
MICROSCOPE	5	3	1	UV METER			1
血壓錶	12	3	2	DIGITAL TACHO METER			
耳鼻鏡	2	2	2	恒温恒湿機			
DRY OVEN	2	4	1	DOSE METER	2	5	5
AUTO PIPETTE	5	6	3	INSULATION TESTER			
CHEMICAL BALANCE	1	1	1	SMOKE TESTER			
自動化學分析機	1		1	DIGITAL THERMOMETER			
AUTO BOOTH	1	1	1	GAS DETECTOR			
				AIR NITROGEN REGULATOR			

別添2.

'93年度技術移轉分野と關聯機材購入豫定現況

センター	機 材	数 量	備 考
ソウル	自動血球計算機	1	國庫支援
	UV-IR	1	
釜 山	Noise dosimeter	2set	國庫支援
	X-線撮影機	1	
光 州	Sound Scope	1	
	赤外線測定機	1	

日本 評價調査團 訪韓に 對する 事前資料

1993年 3月 10日

順天鄉大學校
集團産業健管理研究所

(1) Project Site別 COUNTER PART 配置計画

(機関名：順天郷大学校)

技術協力分野	性 名	年 齢	職 務	資 格	経 歴 年 数	日本のCOUNTER PART と 職 務 分 担 内 容	日本語 能 力
計							
1. 作業環境測定 及び 分析分野	金泰效	38	研究所 作業環境 測定課長	産業衛生管理 技士(1級)	12年	関西労働研究CENTER 京都大学 医学部 京都工場保健会 等 3箇 機関を 各2カ月 ずつ 研修	中
2. 職業病疫学 職業性癌, 塵肺症, 特定化学物質, 有機溶剤中毒 等 に関する 最新知 識及び 技術分野	禹克炫	37	研究所 企画室長 兼 助教授	預防医学 専門医	9年	九州産業医科 大学	中
3. 作業態様起因 疾病分野	安幸徳	34	研究所 専任医師	預防医学 専門医	3年	"	中
	崔顯容	33	龜尾 病院 整形外科 課長 兼 CENTER 諮問医師	整形外科 専門医	7年	未 定 (日側専門家と協議 後 決定)	中
4. 騒音性 難聴 及び 職業性 喉頭 癌	張赫淳	45	龜尾病院 耳鼻咽喉科 科長 兼 CENTER 諮問医師	耳鼻咽喉科 専門医	13年	佐賀大学 医学部 (耳鼻咽喉科 教室)	中
5. 職業性 皮膚疾患	鄭賢	38	龜尾病院 皮膚科長 兼 CENTER 諮問医師	皮膚科 専門医	10年	未 定 (日側専門家と協議後 決定)	中
6. VDT 症候群 分野	李鍾協	34	龜尾病院 眼科科長 兼 CENTER 諮問医師	眼科 専門医	6年	"	中
7. 産業中毒学	李成羽	45	龜尾病院 内科科長 兼 CENTER 諮問医師	内科 専門医	17年	"	中
8. 産業保健 管理分野	李明淑	36	龜尾CENTER 産業保健 看護師	看護師	2年	京都工場 保健会	中
	金良美	34	龜尾 CENTER 看護師	看護師	12年	"	中

(2) 概算

(機関名: 順天部大 学校)

* 龜尾 CENTER

技術移轉場所名	'93 概算内譯	分 野
計		
* 事業収入	計 : 292,000,000 WON	
1. 保健管理代行事業 (107個 事業場 17,000 名 ×1,000WON/月×12個月)	204,000,000 WON	健康診断
2. 作業環境測定 及び 評價	88,000,000 WON	職業病預防
* 支出	計 : 292,000,000 WON	
1. 研究所 専任 人力報酬 (20名×750,000 WON/月×12個月)	180,000,000 WON	健康診断
2. 技術協力 及び 調査研究機能強化費	20,000,000 WON	
3. 効率的 保健管理 體系確立費	10,000,000 WON	
4. 健康診断の 精度管理に関する研究費	10,000,000 WON	
5. 保健管理業務の 電算化に関する研究費	10,000,000 WON	
6. 物品購入費 (消耗品費 包含)	30,000,000 WON	
7. 經常費 (2,000,000 WON/月×12個月)	24,000,000 WON	
8. 豫備費	8,000,000 WON	

* 天安 CENTER

技術移轉場所名	'93 概算内譯	分 野
計		
* 事業収入	計 : 158,000,000 WON	
1. 保健管理代行事業 (業種別) (5,000名 × 1,300 WON/月 × 12個月)	78,000,000 WON	健康診断
2. 作業環境測定 及び 評價	80,000,000 WON	職業病預防
* 支出	計 : 158,000,000 WON	
1. 研究所 専任 人力報酬 (10名×750,000 WON/月×12個月)	80,000,000 WON	健康診断
2. 効率的 保健管理 體系確立費	10,000,000 WON	
3. 健康診断の 精度管理に関する研究費	10,000,000 WON	
4. 保健管理業務の 電算化に関する研究費	10,000,000 WON	
5. 物品購入費 (消耗品費 包含)	10,000,000 WON	
6. 經常費 (1,000,000 WON/月×12個月)	12,000,000 WON	
7. 豫備費	16,000,000 WON	

3, 現在保有設備 及び 器械LIST

가. 健康診斷 裝備

品目名	規格	數兩	用途
1. 體重計		2	肺力 検査用 白血球, 赤血球, 血色素
2. 視力検査機	韓川夕式	3	
3. Audiometer	RTON	4	
4. Microscope	Olympus	3	
5. Automatic Cell Count		2	
6. 白血球 百分率 計算機		2	
7. 恒溫水槽, USA Model 260		2	
8. 冷 藏 庫	金星	3	
9. Automatic Pipette	Filland	3	
10. Refractometer NOW		4	
11. X - 線 攝影機	TOSHIBA 500MA	2	
12. X - 線 攝影機	SIHAZU	2	
13. 遠心 分離機	Kokusna	3	
14. Hemoglobin photometer		2	
15. Gluco meter	BT 20-800R	2	
16. Hemato Flurometer	Model 206	2	
17. 血壓機 (水銀)	Yull	10	
18. Chemical Balance ER-120		2	
19. Spectrophotometer 21 B & L		2	

나. 作業環境 測定 分析裝備

品目名	規格	數兩	用途
CO Gas Analyzer	Ecolyzer	2	CO 測定用
Digital Dust Indicator	Sibada, p-5 LW	2	粉塵 測定用
Lux Meter	Sibada, ANA-500	2	照度 測定用
Air Sampler(Low Volume)	Sibada, C-20	2	粉塵 試料採取用
Mercury Analyzer	Hiranusa, HG-1	2	水銀 測定用
Dry Oven	Lab-Line, 3511	2	乾燥用
Wet Test Gas Meter	GCA	2	試料測定用
Air Sampler(High Volume)	Staplex	2	試料採取用
Longwave UV Lamp	SP-410-L	2	分析用
Shortwave UV Lamp	SP-410-L	2	分析用
Globe Thermometer	Lskikawa	5	輻射熱 測定用
Anemometer	Sibada, ISA-S	2	氣流測定用 局所排氣施設의 性能檢査
Barometer	Utsuki, B-150 GNT	2	氣壓測定用
Psychrometer	OTA Keliki, 54	2	濕濕度測定用
Personal Air Sampler	Gillian 113	20	試料採取用(粉塵, 有機溶劑)
Spectrophotometer	B & L	2	試料化學分析(重金屬)
Autonic Absorption Spectrophotometer	shimadju 680-A	1	試料化學分析(汞金屬)
Gas Chrometograph	Shimadju GC-14	2	試料化學分析用(有機溶劑)
FID, TCD			
Sound level meter	OS-11	2	騒音測定用
Chemical Balance	ER-120	2	粉塵測定用
顯 微 鏡	LSCB-VC-2BL	2	粉塵測定用
Impinger		10	特定化學物質採取用
純粹製造裝置	76 DL	2	
檢 指 管	Gestec		50種 保有 檢 指 管
酸素(O ₂)測定器	Gestec		

韓・日協力事業
'92年実績及び'93年の計画

1993. 3

産業保健研究院

92年度の推進実績

◎専門家の来韓

分野	人員	期間	備考
産業保健一般	1名	'92.9～'93.8(1年)	活動中

◎研修生派遣

分野	人員	期間	備考
変異原性試験	1名	'92.8～'93.9(1年)	研修中

◎供与機資材

- 産業保健研究基盤の整備分野 9種10式中 (供与期間: '92～'94)
- ・ 誘発電位測定装置 1種 (輸入中)
- ・ 用途: 職業性抹消神経障害の電器生理学的評価用

◎産業保健の一般分野の諮問実績

- 諮問の判断によって日本の研究事業にかかわる資料提供
- 研究院の要請によって研究事業にかかわる資料提供
- 研究院の各室の業務にかかわる諮問
- セミナーなどの対外行事に参加

' 9 3 推 進 計 画

① 専門家の来韓

分野	人員	期間	諮問内容	備考
局所排気装置	1名	1カ月	設計方法 検定方法	帰国
保護具検定	2名	2週 ('93. 10)		
研究の基盤整備	1名	1カ月 ('93. 4)		

② 研修生派遣

分野	人員	期間	研修内容	備考
吸入実験	2名	1年 ('93. 9. 4)	工学分野 実験分野	研修中 93. 3 出国 予定
職業性疾病	1名	1月 ('93. 2)	職業状態に起因する疾病	
作業環境測定	1名	3月 ('93. 4)	測定評価方法	
職業性疾病	1名	3月 ('93. 12)	工業中毒	

③ 供与機資材

一' 9 3 供与計画

- ・ 産業保健研究の基盤整備分野 9種 (供与期間: '92 ~ '94)
- ・ 有害化学物質の皮膚吸収測定技術装備 5種

-'93供与実績

・局所排気装置分野

区分	品名	備考
計	32種	
機器	風速計外2種2点	
消耗品	スモクテスターキット外1種	
書籍	工場換気外19種19冊	
文具類	ケンパスアート外3種	
文献	局所排気装置用カタログ外2種	

◎産業保健一般分野の諮問計画

ー産業衛生研究室

- ・日本において最近の研究動向
- ・作業環境の測定結果
- ・日本において最近の精度管理
- ・局所排気装置

ー産業医学研究室

- ・産業医学総合研究所における研究方法、研究院との協力可能な分野
- ・産業保健分野中の社会医学的な研究分野と生物統計及び疫学分野の現況にかかわる資料に関する諮問
- ・産業医学研究室の事業についての諮問

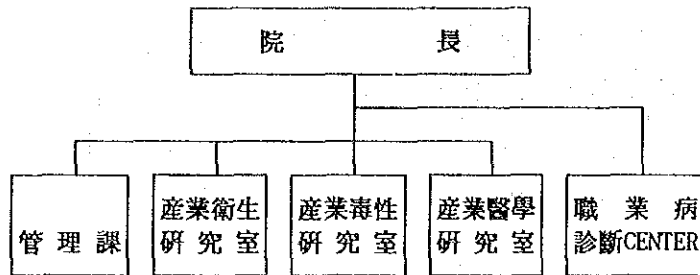
ー産業毒性研究室

- ・日本及び外国においての有害化学物質を取り扱う事業場の作業環境改善技術の開発、生物学的モニタリングに対する諮問
- ・日本における既存化学物質に有害物質による職業予防のための根源的な毒性検索方法と評価方法
- ・日本における新規化学物質の有害性調査及び評価方法
- ・日本における有害化学物質の有害性評価と許容濃度の設定と勧告に関する諮問

ー病診断センター

- ・ 職業性疾病の実態、健康診断方法及び健康診断事後措置などに関する日本の最新知識、技術、情報
- ・ 職業病診断
- ・ 離職労働者の健康診断
- ・ 職業病臨床研究
- ・ 日本で実施している健康診断管理のための総合精度管理方法
- ・ 健康受診者個人に関する資料のコンピューターによる管理方法

組織: 1課 3室 1 Center



定員

區分	計	別定職	管理職	研究職	技術職	管理・技術職	技術・研究職	技能職
定員	43	1	4	15	6	1	8	8
現員	39	1	4	8	11	-	7	8
過不足	Δ 4	-	-	Δ 7	5	Δ 1	Δ 1	-

1993年 3月 現在

未充員 内譯

首席研究員: 2名 (毒性研究室長, 診斷 Center)

先任研究員: 1名 (診斷 Center)

專門人力 保有 現況 修士

博士 10名 (醫師 6), 碩士 14名

産業衛生管理技士 1級 3名

臨床病理士 1名, 放射線士 1名, 看護師 1名

職業病豫防 韓·日 技術協力 會議資料

1993.3.19(金)

大韓産業保健協會

職業病予防 韓日技術協力 會議資料

1. '92年('92.4 - '93.3)協力事業の実績及び評価

A) 事業実績

○ 研修生派遣(実績及び予定)

(機関名: 大韓産業保健協会)

分野	所属・姓名	研修機関	研修内容	派遣時期	備考
職業性病	産業保健センター (光州勤務) 金 容 湜 保健管理医師	京都大医学部 財団法人 京都工場保健会 (日本国)	中小企業体の集団保健 管理及び生物的監視方 法 - 制度的面とその実相 THP 推進事例 有害物取扱勤労者の有 害因子と生物学的監視 方法等	1993. 2.17 ～ 5.15 (3 個月)	

○ 専門家活用(実績)

(機関名: 大韓産業保健協会)

分野	日本(所属・姓名)	諮問活動及び内容	韓国側 C/P
健康診断管理 (生体試料精 度管理)	原田 章 (管西労働衛生技術 センター所長)	* 精度管理制度に関する講義 - 先進国の実相 * 生体試料製作方法及び評価に関する 関係者の教育	車喆煥委員長外 精度管理委員 - 金哲雄課長
	来韓時期(期間)	成 果	備 考
	1次: 1.24-1.28 2次: 2.13-2.25 3次: 3.18-3.24	生体試料中重金属混入製造試料の技 術専修	

分野	日本(所属・姓名)	諮問活動及び内容	韓国側 C/P
作業環境測定	奥 重治 日本中災防協会 労働衛生検査センター 所長	* 作業環境測定方法 - 曝露限界 TLV 等教育 - 作業環境評価 * 作業環境改善の基本的事項 - 汚染源及び汚染物質 Control * 測定評価等工場実習 * 作業環境管理に講演実施 - 作業環境測定機関、技術職担当者に対する講義実施 - Catholic 医大予防医学教室 主催講義 - 韓国産業衛生学会 JICA 共同 主催学術セミナー	李政煥 専門委員 金正男 課長 李匡默 教授
	来韓時期(期間)	成 果	備 考
	3. 8 - 3.21 (14日間)	具体的な評価方法論、技術専修 - 有害物質管理方法等	

○ '92 年度機資材導入予定関聯。自体細部活用計画

(機関名：大韓産業保健協会)

分野	機資材名	活 動 計 画	配 置 場 所	備 考
職業性疾病	別添 1.	勤労者健康診断の内実を期するが為に設置、運営予定	ソウルセンター	
作業環境測定	別添 2.	勤労者個人曝露量と作業環境濃度の正確な測定及び評価で信頼の提高	ソウルセンター	

B. 事業評価

○ 問題点及び隘路事項

- 専門家派遣時協会側と事前協議要望。
- 韓・日間誓約した年度別、機装備提供及びそれに対する教育等技術協力が未だ実践していない。
- 精度管理試料製作時試料製作に直接関係する実務技術者の技術移転に参加することが望ましい。

○ 其他要望事項

- 確定導入する装備に対して早速に韓国側に通報通関節次（手続）に對備するよう要望。

2. '92年度技術協力事業の計画

○ 研修派遣

(機関名：大韓産業保健協会)

分野	希望予定者	研修希望機関	研修内容	派遣時期	備考
職業性 疾病	李明淑	京都工場保健会	* 集団保健管理体制及び運営方法 — 参与機関、対象事業場訪問等 — 資料管理、プログラム等運営方法研修	'94.3.1-3.14 (2週間)	保健管理 係長
	金洙根	京都工場保健会 京都大医学部	* 中小企業の集団保健管理及び生物学的監視方法 — 制度面とその実相 THP 推進事例 * 有害物質取扱労働者の有害因子と生物学的監視等 * 全研修者研修教育中保完事項	'94.3.1-5.31 (3ヶ月間)	

分野	希望予定者	研修希望機関	研修内容	派遣時期	備考
作業環境測定	朴厚根	京都工場保健会 作業環境測定師 協会	*作業環境管理 -試料採取、分析、評価方法 のField訓練 -作業環境改善技法 *生産工場の変更及び改善対 策方案等	'94.3.1-5.31 (3ヶ月間)	

○ 専門家収用

(機関名：大韓産業保健協会)

分野	希望専門家	諮問内容	韓国側 C/P	来韓時期
作業環境測定	関係分野の専門 家	関係分野の先進専門技術の 専修及び討議、セミナー講義 の実施	李政煥専門委員 金正男課長 金錫源室長	'93.8.1-8.31 '94.1.4-2.28

○ 導入希望機資材

(機関名：大韓産業保健協会)

分野	優先順位	装 備 名	規 格	備 考
職業性疾病 作業環境測定		別 添 3.		

Ⅲ. 其他主要事項

○ Project 分野別 Counter part 配置事項

(機関名：大韓産業保健協会)

分 野	姓 名	年 齢	自 格	経 歴 年 数	日本側 c/p との 職務分担内容	備 考
作業環境測定	李 政 煥	58	産業衛生技術師	30	協会、韓・日協力事業総括補助	
	金 正 男	50	化 学 専 攻	20	行政専担、装備選定	
	任 昌 浩	36	産業衛生 1 級	13	測定、評価	
	金 錫 源	37	環境技術 1 級	10	有害物精度管理	
	金 在 雄	40	”	12	測定・評価	
	朴 厚 根	33	産業衛生 1 級	6	”	
	金 鍾 寬	26	環境技師 2 級	4	測定評価補助	
	柳 寓 植	30	環境学専攻	2	韓日協力事業担当	
職業性疾病	趙 英 璿	70	予防医学専門医	45	通訳業務指導	
	河 銀 姫	30	”	6	職業性疾病	
	楊 達 先	63	”	36	協力事業管理	
	金 洙 根		”	6	職業性疾病	
	金 容 湜	35	”	9	協力事業管理・職業性疾病	
健康診断管理	金 哲 雄	51	臨床病理技師	25	行政及び精度管理技術伝達	
	孫 昌 根	30	”	9	精度管理検査業務	
	李 玘 烈	28	”	7	”	

○ '93 年度技術移転場所別、分野別予算内訳

(機関名：大韓産業保健協会)

分野センター名	計	中 央	釜 山	光 州
技術移転確定 (場 所)	236,050,000 WON	43,000,000 WON	62,700,000 WON	130,350,000 WON

韓日技術協力装備、関税、運搬費、設置費用	100,000,000 WDN
----------------------	-----------------

○ '93年度技術専修分野と関連した機資材保有及び購入予定現況

(機関名：大韓産業保健協会)

分 野	既保有及び保有購入予定機資材名	規 格	数 量	備 考
職業性疾病 作業環境測定	別添 4.			

別添 1.

大韓連業保健院総合導入希望機算付

1992. 10. 26

分野	優先順位	装置名	個数	型	希望型式	理由
感染症 疾病	1	血液生化学 自動分析装置	1		AD-5021(OLYMPUS)	感染性疾患を検査する際には、肝機能検査、腎臓、尿酸などの生化学検査を主にするようになり、また、検査項目が多量(1項目あたり検査項目約2,000件)であるため、Multi-typeのOlympus Model AU5021が欲しい。
	2	自動血球 計算機	1	Z-1000	Z-1000	Z-1000 ①FDA(IFU-1)付帯。 ②RM-310特別付属品 類。
	3	X-RAY 撮影機 (直接)	1	DHF-155K, etc VD 150L, etc RX0-30R, etc	SHIRAVISON 1200	既述仕様は CERT だけに使用するようになり、追加して、現在私達が必要とするものは、両機撮影を撮影することも、出来るし、CERT撮影も、可能な物が、必要ですので、CERT GENERATOR を、REMOTE GENERATOR に取り換えて下さい。また、通路形 TABLE も追加するよう、お願い致します。日本製で、提示して下さった仕体(機械)は、両機撮影が、不可能で(自動駆動専用)本 組合では、室内設置品が、必要です。
	4	オート スパイロメータ	1	DISCOM-21PR	DISCOM-21PR	
	5	オート リリニエータ	1	PASTEC 405, EDL-06	PASTEC 405	
	6	心電 計	1	ECG-6353	ECG-6353	
	7	トレイミキサ	1	NO.40, 360, PHX-04	PH-311(POLYRESIO)	
	8	顕 微 鏡	1	BHS-323	BHS-323	
	9	身長、体重計 自動記録式	1	BWS-200	BWS-200	
	10	骨質自動記録装置	1	SRX-501A	SRX-501A	
	11	自動視力検査器	1	QH-A3300	QH-A3300	
	12	オートアイメータ	1	AA-72	AA-72	
	13	電子非観血式血圧計	1	BF-8800	BF-8800	
	14	分光光度計	1	F-2000, RF-5000	F-2000, RF-5000	
	15	X-RAY 撮影機 (間接)	1	JAB-200, "233"	JAB-200, "233"	
	16	血液 GAS 分析機	1	JAB-200, "233"	JAB-200, "233"	
	17	分光光度計			CXMA-100	健康診断を実施する時、診察場で移動して、X線用撮影をする時、必要な装置です。 (1個 CERT-40 OPERATOR/DAY)

※. ①血液生化学 自動分析装置 ②分光光度計 ③X-RAY 撮影機 (間接機)は 1992年 10月 4日 別添 2 号で 通報した 本 件 装置の

中に ありません。

分野	優先順位	装 備 名	個 数	型 式
作業環境測定	1	原子吸光光度計	1	Z-9100, AA-6500
	2	ガスクロマトグラフ	1	GC-14BPFB G-3000FLD/BCD
	3	光電分光光度計	1	U-3210, VV-2201
	4	位相差顕微鏡	1	Y2F-Ph-21
	5	ローバリュウム エアサンプラー	5	C.20
	6	ハイバリュウム エアサンプラー	5	HVS-500-5S
	7	デジタル 粉じん計	5	P-5HZ
	8	濕式ガスメーター	1	W-NK-10A
	9	小型バブラーセット	5	8010-1
	10	ミゼット イン ピンジャー	5	8003-05
	11	定流量 ミニポンプ	5	KP-301CPT
	12	シリカゲル管(120本)	5	8015-063
	13	活性炭管(120本)	5	8015-053
	14	流量計	10	2933-01
	15	真空捕集ビン	10	8010-0510
	16	真空 ポンプ	1	GVP-135A
	17	ガス捕集袋(5ℓ)	5	8010-5000
	18	ガス捕集袋(10ℓ)	5	8010-10000
	19	ガス捕集箱	1	8010-072
	20	ガス検知管	5	400S, etc
	21	排気又は排水処理のため装備	1	DS-111B & DP-50

別添 3. 導入希望機資材

連番	品名	'93	備考
	計	76	
1	Atomic absorption Spectrophotometer	1	分析裝備
2	Gas Chromatography ; G-3000 Hitachi	1	
3	Gas Chromatography ; H80-B Hitachi		
4	HPLC with IC		
5	UV - VIs Spectrophotometer UVIDEC - 77		
6	ICP (multi type)		
7	NMR JEOL JUM		
8	FTIR		
9	Hand Air Sampler	10	測定裝備
10	Noise Dosimeter	10	
11	Digital Dust Indicator	10	
12	位相差 顯微鏡	2	
13	Potable Ambient Gas Analyzer ; JE2 Miran	4	
14	Personal Air Sampler	30	
15	Auto Chemistry Blood Analyzer	2	
16	Automatic Cell Counter	3	
17	X-Ray 攝影機 100mA for Mobil Car Use 問撮自動 Camera 100m/m (自動 Numbering 暗箱子)	3	

別添 4.

'93年度 技術傳受分野と 關聯した 機資材 保有現況

職業性 疾病 装 備 名	C E N T E R			作 業 環 境 測 定 装 備 名	C E N T E R		
	ソウル	釜山	光州		ソウル	釜山	光州
X-RAY 撮影機	1	1	1	W. B. G. T	3	2	1
X-RAY AUTO PROCESSOR	1	1	1	O ₂ DETECTOR	3	1	2
CENTRIFUGE	4	6	3	GAS CHROMATOGRAPH	1	1	1
AUDIO METER	5	3	3	A. A SPECTROPHOTOMETER	1	1	1
B. C. G	2	2	3	ULTRA VIOLET LAMP	2	1	1
SPIRO METER	1	1	1	HOT WIRE ANEMOMETER	2	2	1
REFRACTO METER	1	2	1	CO DETECTOR	1	1	1
SPECTROPHOTOMETER	1	1	1	PHOTOIONIZATION G.C	1	1	
GLUCO METER	4	4	3	CALIBRATOR	1		2
BLOOD ROLL MIXER	2	1	1	UV-IR	1	1	1
白血球百分率計算機	1	1	1	VIBRATION LEVEL METER	2	1	
白血球 計算板	1	1	1	DIGITAL PH METER	1		
MICROSCOPE	5	3	1	UV- METER			1
血 壓 計	12	3	2	DOSIMETER	2	3	3
耳 鼻 鏡	2	2	2	DIGITAL AEROSOL METER	1		
DRY OVEN	2	4	1				
AUTO PIPETTE	5	5	3				
CHEMICAL BALANCE	1	1	1				
AUDIO BOOTH	1	1	1				

支 部 の 現 況

(中央産業保健センター)

1993. 3 . 23.

社団法人 大韓産業保健協會
ソウル 支部

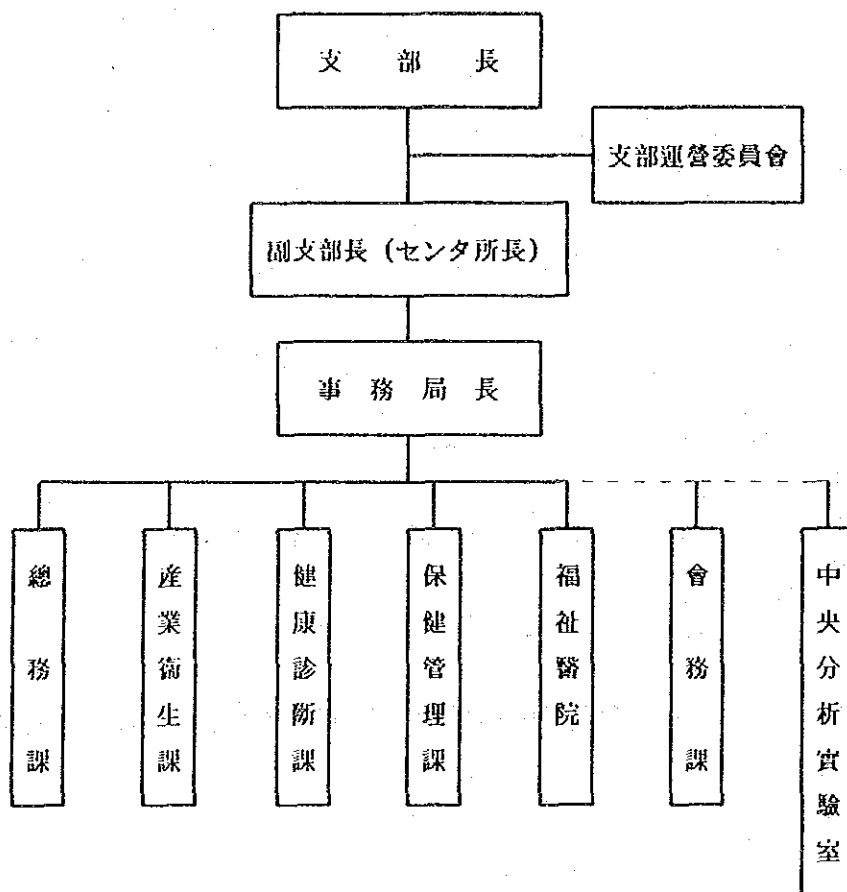
目 次

1. 沿革	1
2. 機構及び人員	2
3. 主要事業	3
4. 作業環境測定及び 特殊健康診断機関指定現況	3
5. 九老工団の現況	4
6. 実績	5
7. 保健管理代行現況	5
8. 建物の現況	6

1. 沿革

1963. 11 協会創立總會
1966. 3 支部の結成
1968. 5 永登浦産業保健サービスセンター開設
1969. 4 センターに付属醫院を開設
1971. 1 清溪市場商街に労働者福祉醫院を開設運営
(衣服製造業の密集地域)
1982. 5 Catholic醫科大學産業醫學研究所と技術協力協定及び
共同研究協定を結ぶ
1983. 2 中央産業保健センターと改稱
1986. 2 集團保健管理体制を確立するため九老工團地域内に移轉
1986. 7 支部建物の獲得(政府融資)(2億円の融資)
1989. 7 中央分析實驗室の設置
1991. 2 保健管理代行の機關指定(労働部)
300人以下の企業を対象としている(450余ヶ所)

2. 機構及び人員



人 員

醫師職	6名
技術職	49名
一般職	14名
計	69名

3. 主要事業

- 0 事業場保健管理の代行
- 0 一般及び特殊健康診断
- 0 作業環境測定
- 0 健康相談と保健教育
- 0 應急処置及び一般患者診療

4. 作業環境測定及び

特殊健康診断機関指定現況

区分 地域	労働部 地方事務所	事業場	労働者数	備 考
ソウル	冠 岳	3,440	146,296	
	(工 團)	(259)	(57,479)	
	(其 他)	(3,181)	(88,817)	
京 畿	安 山	1,030	54,823	
	富 川	3,800	106,728	
合 計		8,270	307,847	

5. 九老工團の現況

区分	第1工團	第2工團	第3工團	計	備考
業種別	事業場数/ 勤勞者数	事業場数/ 勤勞者数	事業場数/ 勤勞者数	事業場数/ 勤勞者数	
計	51 / 12,109	58 / 10,765	150 / 34,623	259 / 57,497	
織 維	14 / 3,317	29 / 5,637	38 / 8,197	81 / 17,151	
印刷製紙	5 / 228	8 / 1,647	11 / 1,682	24 / 3,617	
石油化學	4 / 979	2 / 78	16 / 1,894	22 / 2,951	
非鐵金屬	0 / 0	0 / 0	1 / 455	1 / 455	
1次金屬	0 / 0	1 / 28	3 / 442	4 / 470	
組立金屬	23 / 6,237	15 / 2,707	70 / 20,358	108 / 29,302	
食 品	1 / 60	0 / 0	1 / 28	2 / 88	
琺瑯其他 その他	4 / 1,228	3 / 668	10 / 1,567	17 / 3,463	

6. 宣 績

1992 . 12 . 31 現在

事業年度	' 90	' 91	' 92
一般健診(名)	19,586	15,207	10,985
特殊健診(名)	26,883	32,370	21,353
精密健診(名)	6,236	11,113	8,867
採用健診(名)	1,194	1,957	1,573
作業環境測定(個所)	1,117	1,742	1,069
保健管理代行(個所)	63	520	449

7. 保健管理代行現況

1993 . 3 . 20 現在

地域別	區分	指 定 日 字	指 定 限 界		現 況		備 考
			事業場	人 員	事業場	人 員	
ソ ウ ル	冠 岳	11.19	220	20,000	164	18,842	
	北 部	12. 1	190	13,000	96	11,704	
	西 部	11.26	150	10,000	74	9,274	
	南 部	12. 1	80	5,000	48	4,977	
	ソウル廳	11.27	140	9,000	76	9,115	
計			780	57,000	458	53,912	

8. 建物の現況

区分 層別		m ²	坪	備考
全地面積		605	183	
建 物	地層	36.5	11.05	
	1層	262.3	79.48	
	2層	272.05	82.43	
	3層	183.24	55.52	
	合計	754.09	228.49	

JICA